

みんなの本音が聴ける 語れる

# AIDS文化フォーラム in YOKOHAMA

今年のフォーラム  
皆さんに  
伝わったかな？

## 第31回 報告書

今年のフォーラム  
マジ良かった！

今年のテーマ

フォーラムって何？

### 伝えるむずかしさ

じゃあ  
来年一緒に行き！



〇<◆#!



♪(´ε`)



お困りことは  
ありませんか？



どうすれば  
伝わる？

来年も  
みんなでフォーラムを  
作りましょう！





# 全体風景

オリエンテーション。





1. 全体風景	…P 2
2. プログラム一覧	…P 4
3. 開会式・組織委員長あいさつ	…P 6
4. オープニング「伝えるむずかしさ」	…P 6
5. プログラム	…P 8
6. 展示ブース	…P24
7. 閉会式 ～広がるAIDS文化フォーラム～	…P30
8. SNS活動	…P31
9. フォーラム全体集計表	…P32
10. AIDS文化フォーラムin横浜 31回の歩みー開催概要と経緯ー	…P34
11. 第31回AIDS文化フォーラム in 横浜を支えた人たち	…P37
12. AIDS文化フォーラム in 横浜組織委員会規約	…P38
13. 協賛・寄付	…P39
14. 参加団体等名称・索引	…P39



● AIDS文化フォーラム in 横浜とは？

1994年に横浜で開催された国際エイズ会議をきっかけに、市民の手で市民のために始まったフォーラムです。HIV/AIDSに関する様々な活動を行うNGO/NPO、学生、HIV/AIDSと共に生きる人々、行政、個人が集まり、発表・展示・交流を行っています。多くの方々の温かい想い・ご支援により「手弁当」の市民フォーラムも今年で31回目を迎えました。第27回、第28回は新型コロナウイルスの影響により、オンライン開催となりましたが、第29回からは神奈川県民センターに戻り、今年は従来通り教室でのリアル開催と、ホールでのハイブリッド開催となりました。

● 「文化」の2文字

なぜAIDS「文化」フォーラムなのか？それはフォーラムがHIV/AIDSを医療だけの問題としてとらえるのではなく、広く文化の問題としてとらえることに重きを置いているからです。セクシュアリティ、依存症、ジェンダー、セックス、若者、ドラッグ、学校、教育…私たちの生活＝「文化」とHIV/AIDSは深く結びついているのです。

● 報告書作成にあたって

フォーラム3日間だけではなく、事前準備を含め、参加者の、支えてくださっている方々の、そして運営委員の熱気を伝えたい！そんな思いから、報告書には来場者の声や会場の様子を伝える写真をふんだんに取り入れています。また、フォーラムでの出会い、つながりをきっかけに、それぞれの団体や個人がつながりを深め、活動が広がっていくという願いを込めて各団体の連絡先を掲載していますので、ぜひご活用ください。



みんなの 本音が聴ける 語れる



AIDS 文化フォーラム in 横浜

2024

プログラム

\*入場無料

テーマ: 伝えるむずかしさ

PWA/H・セクシュアリティ・LGBT・性 文化 国際 保健・医療・福祉 教育 若者・ネット つながり 薬物 薬害・人権・ノーマライゼーション

会場の定員は厳守

\*プログラム内容が分かりやすいよう上記の分類で色分けしています。  
プログラム内容をより深く理解していただくため、対象者を限定するものがあります。  
(都合によりプログラムが変更になることがあります。最新情報はHPでご確認ください。)

プログラム名をクリックすると  
各プログラムの詳細サイトへ

YouTube 配信はオープニングのみ

事務局は1階

すきまミニ講座 (303)

2日、3日 14時45分～15時15分  
4日 11時45分～12時15分

会場	10:00～12:00 ～11:30	13:00～15:00 ～14:30	15:30～17:30 ～17:00	
8月2日・金	2階ホール (200)	②階ホール 開会式 オープニング	思春期に何を、どう伝えるか ～当事者目線を重視した伝え方とは～ 北山翔子・宮崎豊久・岩室紳也 <b>又又又</b>	薬物依存症をどう伝えるか 松本俊彦・塚本堅一・風間暁・ピース・岩室紳也
	305 (60)	エイズ・性教育再考 HIV/AIDS 教育のこれまでの振り返りつつ、 未来に向けての展望、期待を考えます	9月までにご一考を！ HPV ワクチンキャッチアップ接種を知ってる？ 選んでる？ 彩の国思春期研究会	若者が嫌がる聞き方と伝え方 ～コミュニケーションコスト～ 一般社団法人日本心理療法師協会 代表理事 椎名雄一
	302 (24)	高久陽介 (JaNP+) 高橋幸子 (産婦人科医) 清水美春 (コンドーム伝道師) 岩室紳也	HIV 陽性者の高齢化 NPO 法人パープル・ハンズ	HIV/AIDS の基礎講座 ～学校でどう伝える？性の多様性や性暴力の回避～ 山田雅子
	303 (24)	日本エイズ学会 (2024.11.28-30) コラボ企画	発達に配慮の必要な子への性教育を考える 【助産師 有馬祐子&相賀佳代子】 with【きらっといっほの会 阿部友理】	お坊さんが行う性教育授業 ver.12 古川潤哉
	306 (24)	YouTube 配信 <b>又又又</b>	シエラレオネにおける中高生性教育プログラムで若年妊娠問題の根本解決を 横浜YMCA 国際・地域事業	ケニアにおける「生理の貧困」と女性のエンパワメント 日本ハビタット協会
8月3日・土	2階ホール (200)	性犯罪を予防するために盗撮、痴漢は依存症？ 斉藤章佳、宮崎豊久、岩室紳也	宗教と AIDS Part19 なぜ宗教？ 宗教はどう伝える？ 平良愛香 古川潤哉 ナナさん 宮崎豊久 岩室紳也	映画 Little Girl ただ、女の子として生きたい。 同時開催「トランスジェンダーのリアル」 パネル展と「ミニ講演」
	301 (90)	看護師からの性教育 ～性教育を語ろうよ ver.2～ 思春期保健相談士 星野貴泰	親しい人にどう伝える？ <b>又又又</b> HIV・薬物・セクシュアリティ 一映画『カミングアウトジャーニー』上映と俳優・精神科医&参加者のクロストーク 出演・福正大輔、ピース	若者に伝わるメッセージとは 岩室紳也
	305 (60)	妊婦さんの感染症、どう伝える！？ ～HIV、梅毒、STDなどで悩んでいる女性～ 厚労科研究費HIV母子感染予防班	性暴力サバイバービジュアルボイス 「写真」に写る性暴力サバイバーの世界 STAND Still	インターネットの功罪とこれから 宮崎豊久
	303 (24)	学校で使えるワークショップ 公益財団法人横浜YMCA 横浜中央YMCA		すきまミニ <b>本音で語ろう ～場外乱討</b> 思春期保健相談士 星野貴泰 山田雅子
	304 (60)	性的同意を文化に 2 早稲田大学 性的同意ハンドブックチーム		301会場 (90名) 302会場 (24名) 303会場 (24名) 304会場 (60名) 305会場 (60名) 306会場 (24名)
302 (24)	いろいろな言葉、いろいろな心、伝える気持ち ～聞いてみよう、話してみよう～ かぜが対外国人すまいサポートセンター			



会場	10:00～12:00 ～11:30	13:00～15:00 ～14:30	15:15～16:00	
8 月 4 日 ・ 日	2階 ホール (900)	<b>タブーを超えて 日本の性教育に変革を！</b> セクテル (公文国際学園高等部男子3人組)	<b>夜回り先生と考える 若者の諸問題を解決するには</b> 水谷修 宮崎豊久 岩室紳也	2階ホール  全体会・閉会式 次のつながりへ、AIDS文化フォーラム  AIDS文化フォーラムを支えてくれた人たち  AIDS文化フォーラム in 横浜  AIDS文化フォーラム in NAGOYA  AIDS文化フォーラム in 京都  AIDS文化フォーラム in 陸前高田  AIDS文化フォーラム in 佐賀   
	301 (90)	<b>みんなで考える女性の性 (女性向け風俗の現場から)</b> SPAWhite <b>R18</b>	<b>不倫と性感染症</b> 岡田百合香 	
	304 (60)	<b>伝えるむずかしさを乗り越える 「間身体性」と「言葉」</b> 性の健康イニシアチブ	<b>薬物をやめたい</b> NA 南関東エリア	
	302 (24)	<b>HIV感染症と歯科</b> 神奈川県歯科医師会	<b>集まろう 語ろう ～本音のネットワーキング～</b> 山田雅子	
	303 (24)	<b>薬害エイズの日本と英国の 対応の違い</b> 薬害エイズを考える山の手の会	<b>国際エイズ会議</b> '94のパーティとアートのこと 秋田祥	

## 【展示場】かながわ県民センター1階



8月2日(金) 12時～17時30分

8月3日(土) 10時～17時30分

8月4日(日) 10時～15時

### 【展示団体一覧】

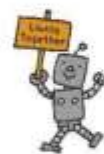
- ◇アジアの女性と子どもネットワーク
- ◇カトリック中央協議会 HIV/AIDS デスク
- ◇神奈川県ユニセフ協会
- ◇ジェクス株式会社
- ◇性教育いらすと
- ◇性の健康イニシアチブ
- ◇ナルコティクスアノニマス南関東エリア
- ◇日本HIV情報センター (JHIC)
- ◇日本ハビタット協会
- ◇横浜 AIDS 市民活動センター
- ◇STAND Still
- ◇運営委員会主催ワークショップ

【助成金】公益財団法人エイズ予防財団 (令和6年度エイズ予防財団助成事業)

【特別協賛】ワイズメンズクラブ国際協会東日本区

【HIV 陽性者登壇支援寄付金】ヴィーブヘルスケア株式会社(対象プログラムは **AAA** 印で表記)

【協賛・寄付】ヴィーブヘルスケア株式会社、ギリアド・サイエンシズ株式会社、ジェクス株式会社



## 開会式・組織委員長あいさつ

AIDS文化フォーラムin横浜は、31回目を迎え、今年も神奈川県民センターで開催することとなりました。今年度のテーマは、「伝えるむずかしさ」です。

情報が氾濫し、真偽の判断が難しいものが一方的にもたらされる時代に私たちは生きています。意図的に自らの収入のために偽の情報を流す人もいます。一方的な自分の思い込みを正義と信じて他者を攻撃したり、異なるものを排除したりする人もいます。

自然と、情報を受ける側も慎重になり、深く掘り下げて調べたり、異なる見方と比較したりしながら、自ら考え、行動していくことが求められ、少しずつそういう人が増えてきつつあるのではないかと考えて希望を持っています。しか

し、その反面、情報を提供するということが一層困難さを伴います。自らの主張だけでは賛同する人にしか伝わらず、多くの人に知ってもらいたいものにもともとアンテナを張っている人にしか理解してもらえない、そんなジレンマも社会問題へ取り組む中には生まれます。

伝える側と受け取る側のなかで、「言いたいことはこういうこと？」「そういうことではなくてこういうことを言いたかったんだよ」「そうか、こういうことだったのか、わかったよ」と会話が生まれます。対面だとこんな数分で解決することができても、多くの人や、匿名の少数意見に多くの人が賛同しやすい今のSNSなどの環境下においては、伝えることは難しいことになりつつあるのが現状です。

運営委員の皆さんを中心に、「伝えることのむずかしさ」に正面から向き合い、多様な視点から進化し続けるプログラムが多彩に用意されています。今年も多くの皆様の力の結集したフォーラムをぜひお楽しみください。

さて、人間は本来、多様性を尊重する社会にいて、自分にはないものを持つ他者に出会うことによって、経験と知識が増え、自分なりに吸収して解釈することで全人的な成長をしていくものです。子どもたちへの教育も「違いを認め共に生きる」ことができるような多様な価値観に触れることが大切といえます。このAIDS文化フォーラムは当初より、医療だけの問題としてとらえるのではなく、広く文化の問題としてとらえることに重きを置いてきました。こんな時だからこそ、多様な価値観や文化を発信し続けるフォーラムの存在が重要と考えます。

なお、この開催に向けて多くの方々のご協力と参画があったことを申し加えます。ことに、協賛、助成、ご寄付をお寄せいただきました、企業、団体、個人の皆様に心より感謝申し上げます。

ご出演、ご出講いただく皆様、運営委員の皆様、運営に携わるスタッフ、ボランティアすべての皆様に、組織委員会を代表して心から感謝申し上げます。

私たちが多様な社会を生きる一員です。

参加される皆様もぜひ、「参加者」から、ともにこのAIDS文化フォーラム in 横浜をつくっていく「文化の発信者」「文化の継承者」になっていただければ嬉しく思います。



## オープニング

### エイズ・性教育再考

**主催：**AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会（日本エイズ学会コラボ企画）

**登壇：**高久陽介（JaNP+）高橋幸子（産婦人科医）清水美春（コンドーム伝道師）

**司会：**岩室紳也（AIDS文化フォーラム in 横浜）

1994年8月に開催された国際エイズ会議と並行して開催された市民による、市民のためのAIDS文化フォーラム in 横浜。31回目を迎えた今回、テーマである「伝えるむずかしさ」について登壇者、そしてフロアの皆様と考えました。



**内容:** 今回のフォーラムのテーマ「伝えるむずかしさ」にたどり着いたきっかけは、運営委員の岩室先生が高校で講演した際の生徒の感想「エイズというものは知っていたけど、血液だけで感染すると思っていたので性行為をすることによっても感染するということを知って驚いた(高2女子)」がきっかけでした。いろいろな意見がある中で、中学校の教科書には「エイズウイルスが性的接触で感染する」旨の記述がある一方で、未だに「HIVに感染しない行為」と言った記述があるという現状(右図)を踏まえ、いま、エイズ教育、性教育に求められていることについて議論をしました。

HIV感染の当事者として高久さんは教育で偏見差別を解消することは難しいと語られました。「男性とセックスをする男性(MSM)」が4.6%と推計される中で、「過去6か月間にアナルセックスをしたゲイ男性」は67%で、「その際にコンドームを必ず使った」が20.5%、「全く使わなかった」が20.7%。しかし、この人たちが全く知識がないかというそうではない。ゲイ男性の間でHIVが広がる理由として、被差別経験/意識、思春期における自己否定やイジメから「愛された」「断れない」心理になり、避妊具としてのコンドームの必然性がないことを考えると学校教育で取り上げることが難しいのではと指摘されました。

学校現場等で性教育を熱心に展開している高橋さんはUNESCOが推進している国際セクシュアリティ教育ガイダンスの8つのキーコンセプトを紹介しつつ、年代別の目標、5-8歳は自分を大切に、9-12歳は違いを認め合う、12-15歳は選択肢を知る、15-18歳は自分で決めるという目標を共有し、最終的に伝えたいことは「自分の体は自分のもので、自分の人生は自分で選択できるもの」ということと指摘されました。また、日本中で性教育を実践している産婦人科医へのアンケート調査を紹介し、「産婦人科医の中でHIV/AIDSの診療経験」は22%、「性教育の中で必ずHIV/AIDSについて話している」は34%、「話さない理由は他の性感染症の方が多いため」が88%と紹介し、性教育を行っている外部講師が必ずしもHIV/AIDSを取り上げていないことを示してくれました。

元高校の保健体育の教員だった清水さんは「コンドームの伝道師」と呼ばれ、全国の高校生にコンドームを届けたいという思いで「びわこんども」というプロジェクトを立ち上げ、全国90か所10583名分のコンドームを配布されました。また、青年海外協力隊としてケニアのHIV/AIDS包括的ケアセンターに2年間派遣された経験を含め、今でも学校で性教育をする中で、生徒さんの感想「今まで何度もエイズやら性感染症やらの話を聞いてきた。しかしそれはテストのため。成績のため。そんな認識で接してきた単語を今回こんなにもディープに学ぶことで、新たな発見や気づきに出会うことができた」を紹介しつつ、多様性が明らかになる、当事者意識が生まれる、違和感に気づける性教育が足りていないと指摘した。コンドームを生徒に触ってもらうことで生徒同士でしゃべるきっかけができることを紹介した。「学校だからこそ生み出せる“次世代”の“あたりまえ”同調圧力も有効活用」「『コンドームをつけましょう』は残らない」という言葉が印象的でした。

今回のセッションでエイズ・性教育について「こうすればいい」はなく、伝える側は常に性を取り巻く現状を確認しつつ、常にそれぞれの取り組みをバージョンアップし続ける必要性が確認されました。

**参加者の感想:**

- もっと学校で性教育を進めていきたいと思い、外部講師さんにもお願いして毎年行っています。今年は、外部講師さんと連携して、もっと進めていけたらと思いました。たくさんヒントと、やる気をいただきました。ありがとうございました。(40代、教育関係、三重県)
- 「もっと聞きたい！」と、今回も感じました。外部講師の先生とタッグを組みながら、学校教育を変えていきたい！大人に刺激を伝えたい！と強く再認識しました。学べる楽しさ満載のフォーラムに参加できて幸せです！ありがとうございました。(50代、教育関係、東京都)
- タブーって難しいなと思います。知らないことがいちばんのリスクであることをまず広めるべきなのかもしれません。(20代、会社員、茨城県)
- 最高でした！(20代、保健・医療・福祉関係、栃木県)

連絡先:AIDS文化フォーラム in 横浜事務局



## プログラム

### 思春期に何を、どう伝えるか～当事者目線を重視した伝え方とは～

主催：北山翔子・宮崎豊久・岩室紳也（オフィスいわむろ）

内容：HIVに感染した当事者の北山翔子さん。うつ病治療中のADHDの当事者の宮崎豊久さん。正解依存症だった公衆衛生、HIV/AIDSに携わる医者の方の岩室紳也先生。この3名はコロナ禍前にそれぞれの経験をベースに思春期保健指導者研修会を開催してきました。正解を伝えるだけでは聞き手の心に響かないことをそれぞれが経験していました。聞き手の心に響くメッセージとは何かを受講生と共に体験する研修会を開催したところ、受講生は「伝える」ことの難しさを経験するとともに、「伝える」「伝える」ために何が求められているのかを実感してきたことを会場の皆さんと共有させていただきました。



#### 参加者の感想：

- 神様がくれたHIVは読んだことがあります。ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチの話が印象に残りました。一部の特別な人の話だと思ってマイノリティを排除するような自己責任論は本当にだめだなと思いました。(20代、会社員、茨城県)
- 失敗していいんだ、色々な考えがあっていいんだ、自分だけの経験を言葉にしておくこと等、ありのままの自分自身を肯定的に受け入れることが出来ました。(40代、教育関係、神奈川県)
- 海外で数年暮らし、昨年度帰国しました。多様性を体現してる地域で生活していたため、日本に戻った際、今までの「当たり前」が「当たり前」に思えなくなりました。多様な価値観に触れる・共有することが、そのコミュニティの「当たり前」に囚われて苦しい思いをしている人、特に子どもたちが楽に生きられるようになるために必要だと改めて思いました。自分の経験を活かして何が出来るか考えて行きたいと思います。(40代、教育関係、東京都)



連絡先：岩室紳也(オフィスいわむろ)・北山翔子 URL: <https://iwamuro.jp>  
宮崎豊久 E-mail: [miyazaki.toyohisa@gmail.com](mailto:miyazaki.toyohisa@gmail.com)

## 9月までにご一考を！

### HPVワクチンキャッチアップ接種を 知ってる？ 選んでる？

主催：彩の国思春期研究会

埼玉県で包括的性教育やユースクリニックの普及に取り組んでいる一般社団法人です。

内容：HPVワクチンキャッチアップ接種は2025年3月まで！大学生が署名活動の取り組みを行い3回で約10万円のワクチンをもう一度無料で接種するチャンスを手に入れました。その大学生たちの想いをお届けしました。

しかし、副反応の報道が怖くて接種に躊躇している方はまだまだたくさんいらっしゃいます。また、まだ情報が届いていない対象者の方もいらっしゃいます。さらに、接種しない選択肢を選ぶなら、必ず子宮がん検診を受けて欲しいと、少人数ならではの情報提供ができました。



#### 参加者の感想：

- 「HPVワクチンについては情報提供に慎重になっていた。今回情報をアップデートできたので、これからはHPVワクチンについても語ってゆきたい」とご感想をいただきました。

連絡先：一般社団法人 彩の国思春期研究会

Instagram: <https://www.instagram.com/explore/tags/彩の国思春期研究会/>

Facebook: [https://www.facebook.com/seikyoiiku/?locale=ja\\_JP](https://www.facebook.com/seikyoiiku/?locale=ja_JP)



## HIV陽性者の高齢化

主催：NPO法人パープル・ハンズ

性的マイノリティの老後を考える当事者団体です。

内容：医薬の発達でHIV陽性者は長期延命できる一方、HIVを抱えた高齢期には、さまざまな生活課題も生じています。これまでの就労が不安定で貯蓄や年金が乏しい場合もあります。高齢期につきものの介護施設や透析には、いまも偏見から受け入れ拒否も見られます。終末期や死後では、身寄り（相続人）がいなかったり、逆に同性パートナーが法的に拒否され役割を果たすことができないこともあります。

今回、「ゲイの老後はHIV陽性者の老後でもあり、HIV陽性者の老後はほぼゲイの老後である」という視点から、セッションを組みました。老後の実情やおひとりさま高齢者の終末期～死後事務の事例を紹介し、いまからできる備えについてお話ししました。20名ほどの参加者が熱心に聴講してくれました。

家族・親族に頼らない終末期や死後事務にはある程度、方法があるにもかかわらず、当事者の取り組みの意欲は低いようです。「法律が難しい」とともに、病気やゲイにまつわるスティグマを深く内面化し、生きることに意欲的になれない、「自分なんか……」という自罰意識に囚われているのかもしれない。療養や老後設計に意欲的に取り組める心理的サポートも必要なのかもしれない。

連絡先：特定非営利活動法人パープル・ハンズ

〒164-0003 東京都中野区東中野1-57-2柴沼ビル41号

TEL：03-6279-3094 E-mail: info@purple-hands.net URL: <http://purple-hands.net/>



## 発達に配慮の必要な子への性教育を考える

主催：【助産師（2022年包括的性教育実践助産師育成研修修了）有馬祐子&相賀佳代子】with  
【きらっといっぽの会 阿部友理】

内容：特別支援学校も含め様々な場で性教育の実践経験のある者と、発達に配慮の必要な子どもを育てる立場の保護者であり、グループ活動を行っている者から、「心とからだ向き合うことの話」「性教育の話」を伝えてきた経験をもとに気づき・学び・考えについて語りました。「発達に配慮の必要な子どもに『伝わる』ように工夫する」ことは、どのような対象に対しても大切であり、「良いコミュニケーションにつながる心づかい」であることを参加者とともに再認識しました。

参加者の感想：

- 有馬さん、相賀さんのような子どもたちの実態に寄り添った取り組みや語り方、とても参考になりました。阿部さんのように、保護者の方々の支えになれる存在になりたいと思いました。ありがとうございました。
- 一方的にダメ、やるなと言うのではなく、伝え方、寄り添い方が大切だと思いました。
- 特別支援学校だけでなく、普通学級でも同じことが言えるなど感じたことが多くあり、非常に学びになりました。

連絡先：助産師 有馬祐子 TEL:080(9527)7964

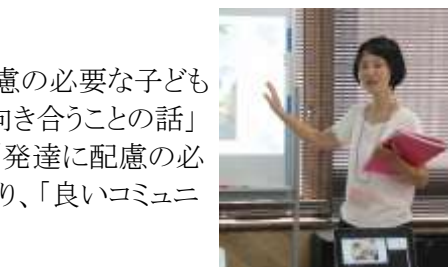
E-mail: shishunki.arima@gmail.com

URL: <https://www.midwifemap.com/mysite/92yamw/staff/>

助産師 相賀佳代子 E-mail: aigakayounmnsy@gmail.com

きらっといっぽの会 阿部友理 E-mail: kirattoippo2017@gmail.com

URL <https://kiratto-2017.jimdofree.com/>



## シエラレオネにおける中高生性教育プログラムで若年妊娠問題の根本解決を

主催：横浜YMCA 国際・地域事業

世界120の国と地域に広がるYMCAは、平和で差別や貧困のない世界を目指して活動しています。

内容：NPO法人アラジの代表・下里夢美さんは高校二年生の時にテレビのドキュメンタリー番組を通して初めて西アフリカにあるシエラレオネのことを知り、幼い子どもが働く現状や紛争に巻き込まれる様子を見て衝撃を受け、それをきっかけにシエラレオネ支援活動に取り組むことを決意しました。

プログラムの始めに、世界情勢、アフリカの現状への理解を深めるためのクイズを行いました。そして、講演の中では、シエラレオネにおける女性の地位がまだ低く、現地の伝統思想の影響と経済的な問題で妊娠した若年女性が学校に戻ることに難しい、進学を断念せざるを得ない課題に触れました。この課題の根本解決に向けて、下里さんは現地の学校で性的同意、避妊方法、女の子でも勉強を続ける権利があることを正しく知るための性教育プログラムを行うほか、電子マネーを活かして自力で復学が難しい若年シングルマザーの女子生徒を対象とした復学支援活動に取り組んでいます。また、NPO法人アラジを立ち上げるまでの経緯、支援活動のエピソードを話してくださいました。遠いアフリカでの出来事ですが、実は私たちの身近な生活につながる部分があり、「誰もが夢に向かって努力できる社会へ」という想いを伝えてくださいました。



### 参加者の感想：

- お話を伺って2050年には世界の若者3人に1人はアフリカ生まれと言われ、新たな視点でアフリカのことを知る必要があるのではないかと初めて感じました。電子マネー送金という形で若いシングルマザーを支援するのも印象的でした。(神奈川県, 20代)

連絡先：横浜YMCA 国際・地域事業 〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7 TEL:045-662-3721 FAX:045-651-0169  
E-mail:kokusai@yokohamaymca.org URL:https://www.yokohamaymca.org/

## 薬物依存症をどう伝えるか

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

登壇：松本俊彦（精神科医）ピースさん（医師）塚本堅一（元NHKアナウンサー）

風間暁（保護司、NPO法人ASK社会対策部薬物担当、薬物依存症当事者）岩室紳也（HIV診療医）

内容：薬物使用やそのことと向き合ってきたことを、同じメンバーで語るの意味があるのか、他のメンバーを加えた方がいいのではないか。そのような葛藤は実は登壇者の間でも今でもあります。しかし、立場は違えども、それぞれが薬物と向き合い続けているからこそ、いま、この一年、何を感じたのかを率直に語ろうという思いで今年も集いました。また、より多くの方に「配信」という手法で伝えるのではなく、対面で集った人たちとの、本音のトークを大事にしました。

### 参加者の感想：

- 心が震えて涙が止まりませんでした。くそ大人を変えていきたい！自分もくそにならないように、学び続けながらブラッシュアップしなければ！と痛感しました。薬物に対する知識とイメージを大きく変えていただいたので、今までと違う切り口で、周りに伝えていきたいと思えます！ありがとうございました。(50代、教育関係、東京都)
- チーム松本の講座、毎年聴講させていただいています。毎年聴いていても新たな発見と自分の中にあつた誤解や偏見に気があります。来年も皆さんの対談を聴かせていただくのを楽しみにしています。配信により、不特定多数に発信することで安心感が無くなってしまうことも非常に理解が出来ます。(40代、教育関係、神奈川県)
- 回復、当事者、更正。依存症境界で頻繁に出てくる、当たり前になっているこれらのワードについて、その意味を改めて考えさせられました。(50代、教育関係、栃木県)
- 薬物をする事で薬物に依存させられてしまうものだと思っていたら、その背景が重要であることを知りました。(20代、会社員、茨城県)



連絡先：AIDS文化フォーラム in 横浜事務局



## 若者が嫌がる聞き方と伝え方 ～コミュニケーションコスト～

主催：一般社団法人 日本心理療法協会 代表理事 椎名雄一

心理カウンセラーの養成と研究を主な活動としています。特に中高生の不登校問題、若者支援をしています。

内容：YouTubeやTikTok、Netflixなどで倍速で動画を見たり、XやInstagramなどで欲しい情報だけを見るのが当たり前の世代と、いまだに電話やFAXを使う世代。その世代間ではコミュニケーションのスタイルも違います。その中で大事なのがコミュニケーションコスト。意味のわからない話は相手に推測をさせ、アツがあれば付度をさせます。そして若者はそんなめんどくさい人に時間を割かなくなってきました。不登校が増えるひとつの側面にはコミュニケーションコストだけ高い大人の存在があります。コミュニケーションのどの部分を改善していったら良いのかを体験型の講義で学習しました。

会場にはおよそ30人、オンラインで50人ほどが参加していました。



### 参加者の感想：

- 大人相手なら気を遣ってできている事が、子ども相手だとできてないなあと思いました。時間が足りなく感じるくらい充実した内容でした。(40代、保護者、神奈川県)

連絡先：一般社団法人 日本心理療法協会 〒194-0013 町田市原町田4-1-10 フジモビル4F

## HIV/AIDSの基礎講座 ～学校でどう伝える？性の多様性や性暴力の回避～

主催：山田雅子 (AIDS文化フォーラムin横浜運営委員)

内容：HIVに感染するとどうなるのか？実はこの部分が一番わかりにくいところなのかもしれません。HIVというウイルスは私たち人間の免疫細胞しかも免疫の司令塔と言われるCD4陽性リンパ球に感染をします。免疫細胞を使ってウイルスは増殖するためウイルスの増殖と免疫の低下が徐々に進行していった結果、深刻な免疫低下状態を来すという感染症です。検査により感染がわかれば薬(主に内服薬)による治療が開始され発症を抑えることができます。しかし現在の医学では完治はないため治療は一生続くとされています。この治療継続のためのモチベーションを維持することはHIV感染に限らずすべての慢性疾患で困難です。なのでやはり予防を伝えることは意味があると考えています。

性の多様性は認知が広がってきた印象があります。実際の生活行動レベルに落とし込めているかという「？」です。世代間の認識の格差などがあるのが現状です。そういった中で興味深い性的同意を皮肉っぽく笑いにしている漫画をご紹介します。問題である不同意の性的行為こそが人を傷つけ尊厳を踏みにじるからに他なりません。同意・不同意がしっくりくるまでにはもう少し時間が必要に思います。来年もどこかみなさんと話し合えたらと願っています。

### 参加者の感想：

- 先生の「本人のことを他人が決めてはいけない」という思いが講義を通して一貫していて、お人柄から学びをいただいた気がします。(40代、NGO/NPO、東京都)
- 講義内容はもちろん、質疑応答のやり取りにも考え方や具体的な行動に関する学びがあって、充実した90分でした。(50代、NGO/NPO、東京都)

連絡先：AIDS文化フォーラム in 横浜事務局



## お坊さんが行う性教育授業ver.12

主催：古川潤哉（浄土真宗本願寺派 浄誓寺 僧侶）

**内容:**佐賀県の中学校、高校を中心にご依頼頂いて実施している僧侶による性教育授業「生と性と死を考える」を模擬授業の形式で実施し、その背景や考え方について共有した。仏教では生老病死(しょう・ろう・びょう・し)の四苦を根元苦と捉えるが、一般的には老病死だけを苦と捉える傾向がある。「生老病死」の「生」は「生まれてくる」ことであり、「生きる」を指すのは「生老病死」全体、即ち、そもそも「生きる」ことは本来私たちにとって「苦」であることが示されている。ところが私たちの日常では、たまたま今上手く行っている人が他者に対して「生きることは素晴らしいことだ」「楽しい事だ」と押し付ける形の社会になってはいないだろうか？楽しい人は楽しんで行けば良いが、思い通りにならない人生をどう生きるのか？必ず死んでいく人生をどう捉えるのかという、避けて通れない部分の大切さを含めた性の話が普及することを願いながらの一コマであった。

### 参加者の感想

- 他の時間が重なっている講座にも参加したかった。また、人数制限があつてはいれない講座で残念でした。配信や資料が欲しかったです。(40代、保健・医療・福祉関係、東京都)
- いのちの大切さってなんだろうと、前から考えていて答えが出ないまま毎日生徒と向き合っています。先日、家族が亡くなり、私の実家は浄土真宗で、どんな考え方なのかを知りたかった、いのちの大切さってなんだろうと考えたかったので、今回、久しぶりに古川さんの授業を受けさせていただきました。いのちの大切さについては、まだどのように生徒に伝えていくかを悩んでいます。自分自身の心の整理もこの時間にできたと思います。ありがとうございました。(40代、教育関係、三重県)



連絡先：古川潤哉 E-mail:junya@joseiji.org URL:http://furujun.info

## ケニアにおける「生理の貧困」と女性のエンパワメント

主催：日本ハビタット協会

登壇：マリ クリスティーヌ（日本ハビタット協会副会長）

**内容:**ケニアの少女と女性が自立していくことを妨げる大きな課題として、①月経衛生処置(Menstrual Hygiene Management)、②女性器切除(Female Genital Mutilation)、③児童婚(Child Marriage)の3つがあります。これらの実情を紹介しながら、ケニアの女性たちを取り巻くさまざまな問題について知る機会となりました。

また、当協会がケニア西部ホーマベイ郡にて実施している生理環境改善による女性のエンパワーメント事業についても広報しました。この事業ではコミュニティにおける性や生理に対する偏見やタブーをなくし生理による肉体的精神的負担を軽減することで、ケニアの女性が羽ばたけるコミュニティを目指しています。過去の事業では、学校において生理期間中に少なくとも7日間学校を休んでいた女子生徒が70%もいた状況が2%まで減少する等の成果がありました。適切な月経衛生対処がいかに女性にとって重要であるかの理解が深まりました。質疑応答では、生理だけでなく水や衛生など幅広い質問があがりました。

連絡先：認定NPO法人日本ハビタット協会

〒102-0092東京都千代田区隼町2-12

藤和半蔵門コープ103号

TEL&FAX:03-3512-0355 E-mail:info@habitat.or.jp

URL:https://www.habitat.or.jp





## 性犯罪を予防するために 盗撮、痴漢は依存症？

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

登壇：斉藤章佳（大船榎本クリニック精神保健福祉部長：精神保健福祉士／社会福祉士）

宮崎豊久（運営委員）、岩室紳也（HIV/AIDS診療医）

内容：性犯罪予防に厳罰化が重要というのが今の世の中の、マスコミの流れだという危機感からこのメンバーでのトークが企画されました。斉藤さんは性犯罪刑法の改正で「不同意性交等罪」の創設、1回で実刑になる撮影罪などの厳罰化が進んだ。しかし、盗撮や痴漢が依存症と言われる中で、厳罰化だけで予防ができず、加害者の歪んだ認知を自分の中の対話力、セルフトークを鍛えていくことも重要である。そして盗撮の被害者は自尊心、安全な生活の感覚も盗みとられていると指摘しました。インターネットの専門家の宮崎さんは、インターネットに氾濫する盗撮に関する膨大な被害の実態を紹介すると共に、児童ポルノが問題になった時に、「歪んだ動機」「内的抑止」「外的制約」「被害者の抵抗力」という視点で予防を考える必要性を指摘しました。岩室先生は、Maslow's hierarchy of needsに学べば、被害者は「安全」を脅かされた結果、斉藤さんが指摘した自尊心だけではなく、その上位のself-actualizationまでもが脅かされる一方で、加害者は人とのつながりを通じた大切、大事にされる体験の共有がなかったことが犯罪につながったのではと投げかけました。性犯罪を予防するには、厳罰化や性教育だけではなく、もっと根本的なところに視点を当てた対策が求められていることが共有されました。



### 参加者の感想

- 性犯罪者の心理について日々身近に接している医療従事者からの分析を聞き、根気強い治療が必要だと感じた。(50代、保健・医療・福祉関係、東京都)
- 性加害の依存症問題、自分が支援者だとしたら、とても受け止めきれない大きな課題だと感じます。加害者の社会復帰を受け止めきれない場合は、加害者を排除してしまっているのでしょうか。受け入れられない自分を、どのように受け入れていったら良いのか、答えのない課題だなどと思います。(40代、教育関係、神奈川県)



連絡先：AIDS文化フォーラム in 横浜事務局

## 看護師からの性教育 ～性教育を語ろうよ ver.2～

主催：思春期保健相談士 星野貴泰

手術室看護師として働きながら中学校・高校で性教育講演をしています。

内容：前半は2023年度性教育講演の実績報告・活動報告をさせていただきました。性教育講演の工夫として「セクシュアリティをどのように話しているか」「大前提としてバウンダリーの話をしている」などの話をしたり、科学的根拠に則った性教育の重要性について話しました。

また、コロナ禍で仲良くなった、長崎県、大阪府、三重県の性教育講師の方への性教育についてのインタビューを紹介し、参加者の方の性教育への思いを共有する時間となりました。

### 参加者の感想

- たくさん実践、そして失敗談の共有ありがとうございました。自分だったら、自分の所属でどんなことが出来るかな、どんな風に伝えていこうかな、そんなヒントがたくさん詰まった時間でした。自分のペースで、色々な方と繋がりが続いて、性教育の情報発信を続けていきたいと思いました。今年も星野さんにお会い出来て嬉しかったです。元気をもらいました。(40代、教育関係、神奈川県)



連絡先：星野貴泰

E-mail: tkstarys.lovelives@gmail.com

URL: tkstarys.com

## 妊婦さんの感染症、どう伝える！？

～HIV、梅毒、STDなどで困っている女性へ～

主催：令和6年度 厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業

「HIV感染者の妊娠・出産・予後に関するコホート調査を含む疫学研究と情報の普及啓発方法の開発および診療体制の整備と均てん化のための研究」（研究代表者 吉野直人）

分担研究「多様な世代の国民向けHIV感染妊娠の情報啓発アプローチの実践と基盤開発に向けた研究」（分担研究者 高野政志）

厚労科研費HIV母子感染予防班「国民へ知識を啓発する分担班」からの啓発活動の一環として行われた。

内容：当日は下記内容でウイルスや性感染症について解説し最後に、総合討論を行った。Zoomによってオンライン発信も行い、WEBからの参加者も募って実施した。

- ◆「HIVと母子感染」（名古屋医療センター 羽柴知恵子さん）
- ◆「STD、梅毒、どう予防する？」（九州医療センター 長與由紀子さん）
- ◆「HPVと母子感染」（防衛医大産科婦人科 高野政志さん）

会場では40名ほど参加して頂き、Zoomでの参加者は76名であった。総合討論としては、性感染症やHIV/HPVに対する予防効果としてのコンドームについて、予防効果が100%でない部分をどのように対処すべきかについて、議論となった。性感染症の病原体の特性にあわせて対応すべき点や、射精のときだけコンドームを使うなどの誤った方法について啓発していく必要性を再認識した。また、HPVワクチンの安全性をどのように考えたらよいかや、接種する対象者の年齢や性交渉歴などについても複数の質問があった。

連絡先：防衛医科大学学校病院産科婦人科 高野政志

〒359-8513 埼玉県所沢市並木3-2  
防衛医科大学学校産科婦人科学講座  
TEL:04-2995-1511 E-mail:  
hivboshi@gmail.com URL:http://



## 学校で使えるワークショップ

主催：公益財団法人横浜YMCA（横浜中央YMCA）

1884年の創立以来、イエス・キリストの生き方にもとづき、人間性が尊ばれ、公正で平和な世界の実現を目指し、地域社会に深く根ざして様々な活動を展開してきました。活動の1つとして青少年へのHIV/AIDSの啓発を行っています。

内容：中学・高校等にて性教育に携わる教員を対象とした講座を実施しました。現場の教員が授業の中ですぐに活かせるワークショップのアイデアを提供しました。（乾杯アクティビティ、100人村ワークショップ、寸劇、サイコロを使った同意の練習など）また、性教育は難しいことではなく「自分にもできる」と思ってもらえるよう、性にまつわる「当たり前」を医学的な観点からお話しました。

当日は大学生の参加もあり、これまでの学校教育の中で教えてほしかったことを話してもらうなど、最後に、参加者との意見交換の時間をもちました。性教育は、ある年齢になったときに学校の授業の中で突然行われるものではなく、年齢に応じて、家庭でも学校でも段階的になされていくべきであるということを再確認しました。

当団体はこれまで、横浜市内の公立中学校から依頼を受け「性的同意や性感染症の予防を考える授業」をワークショップ形式で実施してきました。関心のある方がいらっしゃいましたら、ぜひご連絡ください。

連絡先：横浜中央YMCA 諏訪

〒231-8458 神奈川県横浜市中区常盤町1-7  
Tel:045-661-0080 Fax:045-651-0223  
E-mail:gakuin-ji@yokohamaymca.org  
URL:https://www.yokohamaymca.org/





## 性的同意を文化に 2

主催：早稲田大学 性的同意ハンドブックチーム

**内容:**2022年、早稲田大学の学生が主体となり「性的同意」をテーマにしたハンドブックを作成しました。#MeToo運動が広がる中で、学生同士が性的同意の重要性を深く理解し、問題意識を共有するためでした。学生向けの出張授業型ワークショップも実施され、学生同士が学び合いを通じて性的同意に関する知識を深めています。

性的同意の重要性を広く学生に伝えるため、大学に対して、新入生オリエンテーションに性的同意に関する教育を組み込むことを要請しました。その結果、大学全体ではなく、学部ごとに対応が異なる形となり学部間での取り組みの差があったと当時の苦労話を語ってくれました。またワークショップの参加者は女性が多く、性的同意に関する議論において、ジェンダーバランスが取れていない点が課題として挙げられていました。

性的同意に関する意識向上を一時的な流行として終わらせるのではなく、社会全体で共有されるべき重要な問題として継続して取り組むべきだと考え、これは学生生活のみならず、就職活動や職場でのハラスメント防止にも大きく寄与するもので、特に日本社会や企業がジェンダー問題をはじめ、社会のあり方を見直す中で、学生からの学びが企業文化の変革を促進することを見据えた活動であることを力強く語ってくれました。

後半のワークショップの体験では参加者が小グループに分かれ同意を得る体験をして、楽しく、真剣に、意見交換をしました。



### 参加者の感想:

- 学生が自発的に活動していることに意義深さを感じました。継続して、いろいろな大学に広がっていくことを期待します。(50代、NGO/NPO、神奈川県)
- 現在の大学生や学内の実情が知れて有意義でした。(30代、教育関係、東京都)



連絡先:AIDS文化フォーラム in 横浜事務局

## いろいろな言葉、いろいろな心、伝える気持ち

～聞いてみよう、話してみよう～

主催：特定非営利活動法人 かながわ外国人すまいサポートセンター

神奈川県内の外国籍住民の住まいや生活などに関する相談を多言語で受けているNPO団体。さまざまな視点から多文化共生を考えたいとの思いで2015年度からAIDS文化フォーラムに参加している。

**内容:**外国籍住民の生活や住まいの実態を通して、多様化する価値観、多様な文化があふれる神奈川県で、素敵な出会いを体験する多文化共生ワークショップを実施。

かながわ外国人すまいサポートセンターの多言語スタッフが、中国語、ポルトガル語、ネパール語で参加者に語りかけることで、多言語のシャワーを体験してもらい、感想を話し合う中で交流を深めた。伝えようとする気持ちの大切さや、相互理解について考えるいい機会となった。

参加者からは、日ごろの活動の中で感じている疑問や課題について意見が出され、プログラムに参加することでとてもいい学びになったとの感想も寄せられた。

### 参加者の感想:

- 多様性という言葉は出ていないけれど、空間自体から多様性を感じました。知らない言語が聞こえ、それをみんなで受け止めようとする空気がとても楽しかったです。もっと知らない言語での話を聞いてみたいです。
- まず、各自が母国のことばで紹介される姿がとても印象的でした。まさに自己肯定感を持つことが多様性を認め合える寛容な社会に必要なと思いました。



連絡先:特定非営利活動法人 かながわ外国人すまいサポートセンター

〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7 横浜YMCA 2階 TEL:045-228-1752 FAX:045-228-1768

E-mail:sumai.sc@sumasen.com URL:https://sumasen.com/

## 宗教とAIDS Part19 なぜ宗教？ 宗教はどう伝える？

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

登壇：古川潤哉（浄土真宗本願寺派浄誓寺僧侶） ナナさん（イスラム教徒）宮崎豊久（運営委員）

平良愛香（日本基督教団川和教会牧師、カトリックHIV/AIDSデスク委員）岩室紳也（運営委員）

内容：これまでの「宗教とエイズ」をさらに発展させ、自ら命を断とうと思ったこともある宮崎さん、いろんな背景を背負っているイスラム教徒のナナさんにトークで参加していただきました。テーマのみならず、様々な話題に広がった本音の2時間、登壇者が一番多くの学びをいただきました。来年は多くの方々に現地で聞いていただければと思いました。

### 参加者の感想：

- 時代背景としての効率主義、正解依存症のような流れ、ネット社会に宗教は何ができるのか、何を言えるのか、という問いそのものを興味深く聞かせていただきました。答えのある世界と答えのない世界には希望の有無の違いを見出しました。今の日本、ネットに依存した、正解を求める姿勢は、この社会で生きることへの苦痛や苦悩への救いを求めることの現れなのだと感じます。昔、苦痛や苦悩への救いを求める民の求めに答えるように登場したはずの宗教が、今は求められていない。この意味を考えたくまりました。(40代、保健・医療・福祉関係、神奈川県)
- 分断が加速された世の中へのモヤモヤと向き合う勇気をもらいました。名前だけでひとまとめにせずに、自分だけが正しいと思わずに、これから色々な人たちと分かち合っていく生き方を自分は選んでいきたいなと思える時間でした。(40代、教育関係、神奈川県)
- 私もモヤモヤしていることが多かったのですが、それでいいんだってわかって、ある意味スッキリしました！(40代、NPO/NGO、東京都)



連絡先：AIDS文化フォーラム in 横浜事務局

## 親しい人にどう伝える？ HIV・薬物・セクシュアリティ

一映画『カミングアウトジャーニー』上映と俳優・精神科医&参加者のクロストーク

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

出演：福正大輔（公認心理師・ASK認定依存症予防教育アドバイザー、俳優）、ピース（精神科医）

内容：舞台演出家・福正大輔さんによる、友人、職場、家族へのカミングアウトを追ったドキュメンタリー映画の上映を行いました。薬物をはじめとした複数の依存症のこと、更にセクシュアリティのこと、そしてHIVを持っていること。東京での暮らしの中と、地元でのカミングアウトはどちらも、それを受け止める人たちのリアクションや言葉も温かく愛に満ちていました。後半はホールの登壇でおなじみのピースさんと、参加者も交えて活発な意見交換の場となりました。

### 参加者の感想

- カミングアウトが人と関係性を深めたい気持ちからあるものだということが印象的でした。(20代、NPO/NGO、茨城県)
- 映画の当事者の話が後日談だけでなく、今後の活動展開も聞いて、明るい未来への希望に満ちていたのがとても良かった。(50代、保健・医療・福祉関係、東京都)
- 映画を観て、自分がこの作品を観ることで自分の人生を見つめ直すことができ、すごく貴重な機会でしたし、この映画に出会えて幸運だったなと思いました。今回映画を観たきっかけは、自分が今年から保健所の保健師としてHIV検査の主担当になったので、職場の方に教えていただいたので知ることができたのですが、今後この映画が学校の教材になってくれれば、より多くの方に届けることができ、すごく素晴らしいことだなと思いました。今後のご活動も陰ながら応援しています。ありがとうございました。(20代、保健・医療・福祉関係、神奈川県)



<https://dorobura.wixsite.com/a-cup>

連絡先：AIDS文化フォーラム in 横浜事務局



## 性暴力サバイバービジュアルボイス 「写真に写る性暴力サバイバーの世界」

主催：STAND Still

性暴力サバイバー自らが、公に声をあげずとも写真でその世界を表現することで、相互エンパワメントを目指すプロジェクト。

内容：代表、副代表が登壇し、団体の活動内容について紹介、それぞれの作品について解説しました。参加者からの質問が複数挙がったことで、登壇者が一方的に話すだけに留まらず参加者との交流も図ることができたと共に、会場へ足を運んでくださった方の関心の高さが感じられました。



### 参加者の感想

- 声をあげられない被害者も多くいらっしゃるということに改めて気づかされました。「頑張って声を上げられなくても普通に支援が受けられる社会」残念ですがまだその様な社会ではないようです。自分にも何かできることはないか、できることを探してみます。支援の方法、形もイロイロあっていいですね。
- 「自分のことに説明がついた」当事者にしか語れない言葉だと思いました。



連絡先：STAND Still 神奈川県横浜市 E-mail:standstilljapan@gmail.com URL:https://standstill.jimdofree.com/

## 映画 *Little Girl* ただ、女の子として生きたい。 同時開催「トランスジェンダーのリアル」パネル展と「ミニ講演」 主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会／星野慎二 (SHIP)

内容：映画「リトル・ガール」と聞いてどのような映画を想像しますか？この作品は一貫して社会の周縁で生きる人々に光を当ててきたセバスチャン・リフシッツ監督のドキュメンタリー作品です。トランスジェンダーのアイデンティティは幼少期に自覚されることから、主人公のサシャ、家族、支援者、小児精神科医が皆でサシャが幸せな子ども時代を過ごせるよう奔走します。サシャの願いを阻むものがあってはならないのです。特定非営利活動法人SHIP星野慎二さんのお話からトランスジェンダーの現状と支援が足りていないことなどの学びが多岐にわたり「トランスジェンダーのリアル」パネル展は2日にわたりホール会場で展示を行いました。10月に行われる京都での文化フォーラムで上演されることが決まりました。

- 「リトルガール」前情報なく見たが、最初フィクションであれ！と思った。抱えて耐える主人公の表情に、これ以上の荷物を背負わせないでー！と思ったから。人の目を気にしないこと、怒って良いことかの(自分を勝手に卑下せずに)判断。盲目的に受け入れてしまってることも沢山あるなーと、この家族に改めて教えられた気がした。見て良かった！SHIPの星野さんの講座も整理されていて分かりやすかった。(40代、自営業、東京都)
- フランスの映画だから、というのではなく、日本の現実が目前にあることに痛感した。ミニ講座は映画とともにあって、とても良かった。ミニ講座を長い講座で聞いてみたい。(50代、公務員、神奈川県)



連絡先：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

## 若者に伝わるメッセージとは

**主催：岩室紳也（ヘルスプロモーション推進センター・オフィスいわむろ）**

民間公衆衛生医として「予防」を伝える難しさと日々向き合い続けています。

**内容：**性教育、エイズ教育を30年以上にわたって行ってきた岩室紳也は、ただただ正解を伝えればいいのではないということを繰り返し学ばせてもらってきました。HIV/AIDSの普及啓発に関わり始めた時はそれぞれ全身全霊を込めて「エイズ予防にノーセックスかコンドーム」と訴えていました。しかし、この正解を講演等で伝えられた人がHIVに感染したら、果たして岩室のHIV外来を受診するでしょうか。「No」です。実は若者たちはこのような正解依存症の人たちのメッセージは聞き飽きているどころか一番嫌っています。そのことを伝えるため、大学生以上の人には性のトラブルのみならず、社会で起きている様々なトラブルの「予防」を考えてもらうために、トラブルの背景にある様々なriskを含めた考え方をPowerPointを使った講演で伝えてきました。しかし、理論的な背景は分かったが、岩室紳也が中高生向けに行っているマイク一本の講演を直接聞きたいという要望が少なくありませんでした。そこで今回、聴衆には中高生になったつもりで、中高生向けのマイク一本の講演を聞いていただきました。

### 参加者の感想：

- 私は正解依存症です。正しい知識という言葉が大好きです。だから子どもたちへ伝える言葉が薄っぺらくて伝わらないのかなと思います。最近モヤモヤしてることなんですが、きつな、つながり、絆、が最近の性教育界隈でポピュラーな同意、境界線の大切さと逆行している気がしてなりません。同意、境界線大事なんだけど、おせっかいとか大切だよねと。子たちにはむしろ同意境界線の前にリアルで人とつながることを推奨していきたいと思っています。（40代、保健・医療・福祉関係、神奈川県）



**連絡先：岩室紳也**

URL: <https://iwamuro.jp>

Facebook: <https://www.facebook.com/iwamuro>

## インターネットの功罪とこれから

**主催：宮崎豊久**

**内容：**インターネットの功罪とあえてタイトルをつけましたが、インターネットそのものは一つの技術に過ぎなくて、これ自体が世の中の何かを変えるというには違和感を感じる言葉になります。

あくまでも、その技術を使うのは人であって、人そのものが変わらない限り、時代を超えて同じ過ちを繰り返していくでしょう。

インターネット時代になっても、なぜいじめや嫌がらせ、暴力や性犯罪は無くならないのか？

このような広大なテーマで受講された方と対話を交えながら講義を進めていきました。

参加されたみなさんの職場で起きている課題はみなインターネットを使ったものでありましたが、本質は全然別のところにあることを徐々に受け入れていただき、スマホを取り上げることでない、規制をすることでもない、リテラシーを教え込むことでもない、本質を共有することができました。



**連絡先：宮崎豊久**

E-mail: [miyazaki.toyohisa@gmail.com](mailto:miyazaki.toyohisa@gmail.com)



## 本音で語ろう ～場外乱討

主催：山田雅子、星野貴泰

探し求めるという意味です

内容:ここ数年、すきまミニ講座にゲストとして参加して下さる星野貴泰さんにもっといろいろきいてみたい！もっといろいろ話してみたい！！と思い、この時間を設けて頂きました。



農家の次男坊が保健師を目指して勉強し、なぜか手術室の看護師となって10年余。コロナ禍になっても精力的に性教育の活動に取り組んだわけとは？また星野さんは以前から何かを頼まれると基本的にはお断りしないと言います。「せっかく自分に頼んでくれたのだから」と言います。そのように考える理由をじっくり聴いてみたいと思っていました。その訳は大好きな福山雅治さんの言葉『断る勇氣よりやってみる勇氣』に触発され、『断るしんどさより挑戦する勇氣』と肝に銘じているとわかりました。ポジティブな星野さんを作り上げている大きな力を知りました。

その後性教育の話題となり、性教育はなぜ「運」次第と語るのか？日本の性教育は国際セクシュアリティガイダンスの8項目ある中3項目程度しか取り上げていないことが多く、まだまだ日本の性教育には課題がありそうだという話をしました。ポリティカルコレクトネス(差別的な表現をなくそうという考え方)の大切さと過剰になると表現が窮屈になる難しさの話から話はどんどん場外へはみ出しながらも大切なことを確認し合い、会場の方々と交流しながら楽しく一緒に考える時間となったのではないかと思います。会場との垣根が低いこういうセッションもフォーラムの良さではと感じました。

### 参加者の感想:

- 毎年山田先生の柔らかい司会進行を聞いて、講座を聴講したいと思って参加しました。星野さんとのやり取りをお聞きして、オンライン時代のお二人の講座を懐かしく思い出しながら聞いていました。ほっとすることが出来た時間でした。ありがとうございました。(40代、教育関係、神奈川県)
- 長年、フォーラムに参加しているからこそ話せる内容で、聞いている側としては、そうだったんだ！と思うことをたくさん聞くことができました。(50代、保健医療福祉関係、東京都)

連絡先:AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

## タブーを超えて 日本の性教育に変革を！

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

登壇：セクテル（公文国際学園高等部男子3人組） 岩室紳也（運営委員）

男子高校生3人で、タブーを超えたクリエイティブな性教育を目指して活動しています。

内容:自分が高校生であるからこそ気づいた性教育の本質についてお話しました。当初、僕たちは海外にルーツを持つことから、海外の性教育と比較し、憧れを抱いた結果、日本の性教育も海外のようにするべきだと考えて活動を始めました。しかし、タブー感という壁に直面し、自分たちがやっていたことが本当に正しいのか再評価しました。その結果、単に性教育の水準を引き上げるだけでは受け入れられることは難しく、反発が生じて逆に悪影響を及ぼす可能性があると感じました。

そこで、僕たちは性教育をいかに学生たちにとって身近なものとして感じてもらえるかを再考し、タブーを乗り越えるためのクリエイティブなアプローチにシフトしました。僕たちの活動の経緯とともに、この価値観を共有しました。また、現在の痴漢問題に関しても、女性だけでなく男性も積極的に対策や活動に参加すべきだと考え、自分たちのプロジェクトをその第一歩として、誰でも参加しやすい痴漢防止活動を提案しました。

### 参加者の感想:

- 今後、性教育に特化したAIの作成を目指すとのこと、応援しています。職場が子どもの入所施設ですので、彼らと子供達との交流もできたら面白そうだなと思いました。(40代、保健・医療・福祉関係、神奈川県)
- 若い力に感動！若いっていいなー財産だなー！一人でも多くの若者に『夢』を抱き続けてもらいたいなーと思いました！若者からはパワーをもらえばかりです！応援します！頑張ってください！(50代、教育関係、東京都)

連絡先:セクテル

E-mail:sextellplan@gmail.com URL:https://sextellplan.studio.site/



## みんなで考える女性の性（女性向け風俗の現場から）

主催：SPAWhite 久慈あす香

粘膜同士の接触がない女性向け風俗店の運営をしています。

内容：みんなで考える女性の性というタイトルで発表をさせていただきました。女性向け風俗の現場から見える・みんなで考える女性の性は何なのか。答えがない「性の話」をグループワークを中心にみんなで考えました。当日は以下のような印象や学びを持って帰っていただきました。一部ですが紹介します。「女性の性の話になると安心とか癒しとか抽象的な話になるなあと感じました」「性と心との関係性は深く密着しているので性は大切にしたい」「女性の性について話しにくいことまで話せてよかったです」「もっと女性がオープンに話せる場がたくさんできたらいいなと思いました」「女性用風俗の事業が成り立つぐらい需要があることを知れました」まだまだ語られるとこが少ない女性の性。無理にオープンにすることはないですが安心安全が保証できて信頼できる人に対しては隠すものでもないかな？と思っています。価値観を共有したい時に、一人で悩まないためにもAIDS文化フォーラムのような場所があることは素晴らしいですね。性関連のお仕事をされている方の最新リサーチの場にもなったようでした。多方面の意見をポケットにしまい是非現場でご活躍いただければと思います。



### 参加者の感想：

- 女性の性に関して、すごく理解ができました。(20代、会社員、大阪府)
- セラピストさんの登場には驚きました！(20代、保健・医療・福祉関係、栃木県)
- ハグ体験、やりたくなかったけど、NOと言えませんでした。こども達に繰り返し、NOでもいいよ、自分の体の意思決定を伝えてるけど、大人の私も同調圧力の場面では意思表示できないと知りました。(40代、保健・医療・福祉関係、神奈川県)

連絡先：SPAWhite URL:<https://spa-white.jp/> HPの報告記事 ⇒ <http://spa-white.jp/2024/08/06/2024aids/>

## 伝えるむずかしさを乗り越える 「間身体性」と「言葉」

主催：性の健康イニシアチブ

「健康的な人間関係」を切り口にして性の話をしている民間団体

内容：今年のAIDS文化フォーラムin横浜の全体テーマ「伝えるむずかしさ」に関連させました。現象学という哲学の用語である「間身体性」(かんしんたいせい)を軸にしました。

「間身体性」は、「物理的に身体と身体が同じ場所に居合わせる時、言葉にしていない・意識もしていないようなことでも、お互いに伝え合っている」という考え方です。例えば、講演者が性の話を恥ずかしそうにしていると聴いている側も恥ずかしい気持ちになってくるというのは間身体性の働きによるものです。

代表・柳田が編集者として携わった書籍『共に働くことの意味を問い直す 職場の現象学入門』の中に「間身体性」や関連する概念について登場することから、同書の内容も紐解きつつの発表となりました。

間身体性を切り口に「伝えるのは簡単、伝わるのが難しい。では伝わるためのヒントは？」について話した後、後半では前半の内容を深掘するワークをしました。

### 参加者の感想：

- 間身体性という言葉を知り、普段の実践との繋がりを考え直すきっかけとなりました。
- 「間身体性」についてよくわかりました。なんとなく感じていたことが、そういうことだったのか！と納得できました。今後意識して実践していきたいです。
- 性の話といっても、コミュニケーションの話が中心だったのでよかったです。



連絡先：性の健康イニシアチブ E-mail:[hello@sexualhealth-initiative.org](mailto:hello@sexualhealth-initiative.org) URL:<https://sexualhealth-initiative.org>  
HPのブログに報告記事を載せました ⇒ <https://sexualhealth-initiative.org/reportworkshop20240804>



## HIV感染症と歯科

### 主催：神奈川県歯科医師会

地域の歯科診療や学校検診、また自治体と協働して口腔健康向上活動など実施する団体。

**内容：**2021年4月より3年間、ホーチミン市でHIV陽性者歯科診療体制構築に向けたJICA事業を実施した。本事業によりホーチミン市の歯科医師のHIV陽性者への理解も進み、診療体制も整いつつある。また今年度から神奈川県との協力を得て実施中のベトナム南部でのHIV陽性者の口腔ケア向上活動(クリア事業)を報告した。

次にJICA事業メンバーの歯科衛生士が、エイズ孤児施設で実施した歯ブラシ指導の様子を紹介した。また演者は血友病で手の不自由な方のための歯ブラシの改良に取り組んでいて、その経験を枯葉剤の影響により手に障がいのある子どもの歯ブラシに活かさないかと考えている。

更にJICA事業メンバーの歯科医師が唾液中のHIVの感染力について自身の研究成果を分かりやすく解説し、HIVは唾液中に存在するものの感染力のあるウイルスはないことなどを平易に説明した(歯周病や口の傷からの出血による血液の混入がある場合には条件は変わる)。梅毒などの他の性感染症は粘膜同士の接触により感染する可能性はあるので注意を呼び掛けた。

今年のテーマである「伝えることの難しさ」について、歯科医療従事者も含め、正しい知識の普及に関心のない人々にどう伝えるのか、いまだ演者として解決策はないことを話し終了した。

**連絡先：神奈川県歯科医師会**

〒231-0013 横浜市中区住吉町6-68

TEL:045-681-2172 FAX:045-681-2426

URL: <https://www.dent-kng.or.jp/>



## 薬害エイズの日本と英国の対応の違い

### 主催：薬害エイズを考える山の手の会

薬害エイズ訴訟が1996年3月に和解するも被害者の実情は亡くなる人も多く悲惨な状況下で薬害エイズを風化させないために地域で始めた活動団体。薬害エイズ被害者と共に地域で学習会を開き毎年エイズフォーラムに参加してきました。繰り返される薬害問題を取り上げながら28年活動を続けてきました。

**内容：**今年、英国政府は感染者に謝罪しました。日本と英国の対応の違いを英国に駐在経験のあるジャーナリストと日本の薬害エイズ被害者とで対談しました。

最初に自己紹介で薬害エイズ被害者から当時の日本の医療状況の事実が当事者に伝わらなかったこと、ジャーナリストからは薬害エイズ当時は日本で取材してその後駐在員として英国の薬害エイズについて知ったことが述べられました。日本では薬害裁判として問題の責任追及があり、英国では患者団体の動きの関係や隣国の血液製剤の処理の問題から対処は遅れたけれど公的な第三者機関を立ち上げ問題の所在を明らかにして今年英国の首相が患者に謝罪したとのこと。英国では長年かけて問題追及したけれど日本では問題を忘れてしまう。被害者も高齢化が進み当時を知る人が少なくなってきた、次の世代へどう伝えていくかが課題として指摘されました。

**連絡先：薬害エイズを考える山の手の会・江川守利**

〒123-0865 東京都足立区新田3-17-2-105

TEL&FAX:03-6676-2181

E-mail: [egao5353@brown.plala.or.jp](mailto:egao5353@brown.plala.or.jp)



## 夜回り先生と考える 若者の諸問題を解決するには

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

登壇：水谷修（水谷青少年問題研究所所長） 宮崎豊久（運営委員） 岩室紳也（運営委員）

内容：水谷修さんとAIDS文化フォーラム in 横浜の運営委員の岩室さんは水谷さんが高校の教員だった時代からのつながりです。「夜の世界」と「性教育の世界」に生きる二人、は若者の諸問題を解決するためにそれぞれなりに尽力してきました。今回は水谷さんの基調講演の後、インターネットの専門家の宮崎豊久さんにも登壇していただき、いま、若者たちが必要としていることは何かを、答えを求めるのではなく、様々な視点から議論をさせていただきました。



### 参加者の感想：

- とても楽しめました。私の職場が児童養護施設であり、日本の社会的養護、社会的養育の課題にまで話が至るとは思っておらず、嬉しかったです。水谷先生の言うキャッチボール体制は本当にそう思います。養護の現場は、矯正教育の現場の人からもよく言われますが、抱え込む傾向があります。問題が起きても隠したり、逆に子どものせいにして追い出す施設もありますが、大部分は一度受けたのだから責任があると思い込んでいます。もっと広く、オープンに、子どもたちの成長のためにも、たくさんの方が子どもの養育に携わる環境を作ること、子どもが自分の居場所を見つけることができ、のびのびと育つことのできる社会を目指せると思います。そのために、キャッチボール体制、賛成です。(40代、保健・医療・福祉関係、神奈川県)
- 子どもたちは、望んで夜の世界に飛び込んでいるわけではない、という水谷先生の言葉に、普段接する子どもたちを思い出し、深く共感しました。今までずっと、インターネットはコミュニケーションツールだと思い込んでいた自分の勘違いを紐解いてもらい、改めて対面のコミュニケーションを大切に積み重ねていきたいと思いました。この先の社会がどのような方向に向かうか、不安でいっぱいですが、周囲と分かち合いながら、地道に出来ることに取り組んでいきたいと思っています。(40代、教育関係、神奈川県)

連絡先：AIDS文化フォーラム in 横浜事務局

## 不倫と性感染症

主催：岡田百合香

泌尿器科専門医/産業医。病院勤務の他、乳幼児の保護者を対象とした「おちんちん講座」や若者向けの性に関する講義を行い人気を博している。

内容：知人の不倫相談をきっかけに「不倫と性感染症」というテーマで講義を行った。不倫という恋愛形態においては、性感染症検査へのアクセスが制限されやすい。検査を受けること自体が配偶者以外との性行為を示唆するため、「配偶者や知人にバレずに検査を受ける」というハードルが生じるのだ。「分散」（精神の安定を図るために同時に複数の相手と関係を持つ）という不倫において見られる行動も性感染症のリスク要因となる。一方で、既存の結婚制度の限界や矛盾、ジェンダーや多様性に対する意識の変化、マッチングサービスの浸透により「不倫」は今後さらに多くの人にとって身近なものとなっていこう。

まさにこの報告書を書いている最中にも芸能人の不倫スキャンダルが世間を騒がせている。本当はみんな興味津々なのに、大嫌いなフリをして「ダメ絶対」と叩くフェーズはそろそろ終了し、正面から不倫に向き合って議論する機会が必要であると考えた。

同時刻別会場で超大御所先生方によるセッションが開催されている中、この「不倫」企画に参加するだけあって、参加者による鋭い、熱い意見が飛び交った。

タブーなく語れる場を提供してくれるAIDS文化フォーラム in 横浜には感謝しかない。

### 参加者の感想：

- 不倫と言うものを、論理的に勉強した気がしました。(50代、保健・医療・福祉関係、神奈川県)

連絡先：岡田百合香(個人)

E-mail: ochinchinkoza0312@gmail.com

URL: <https://mama-ochinchin.com>





## 薬物をやめたい

**主催：ナルコティクスアノニマス (Narcotics Anonymous: NA) 南関東エリア**

ナルコティクスアノニマス(NA)は薬物依存からの回復を目指す当事者の、国際的かつ地域に根ざした集まりです。

**内容：**NAについて(動画・NAについての説明)・南関東エリアの活動について・オープンスピーカーミーティングについて

**参加者の感想：**

- 発表会場の入り口にメンバーの誘導があった方がよかった。
- なかなか内輪だけの盛り上がりになってしまい、次年度以降の課題となった。

**連絡先：**ナルコティクスアノニマス

E-mail:naminamikanto.pi@gmail.com URL:https://najapan.org/



## 集まろう 語ろう ~本音のネットワーキング~

**主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会**

**登壇：鳥居咲希 & 山田雅子 (運営委員)**

**内容：**気楽に語れる空間として誰でも参加できる交流セッションでした。

参加者全員でトランプを一人一枚配り、自分のカードだけ見えないように持って他の人たちに質問をしながら自分のカードを当てるゲームをしました。いかに簡潔な質問でヒントをもらって答えに近づいていくかというコミュニケーション力を試されるゲームで、頭を使ったりインスピレーションでぐいぐい進めたりと個性が出ていました。

優勝した人から順番にささやかなプレゼントもあって、日頃気になっている疑問について話し合ったりする時間でした。



**連絡先：**AIDS文化フォーラム in 横浜事務局

## 国際エイズ会議 ‘94のパーティーとアートのこと

**主催：ノーマルスクリーン**

**内容：**①ノーマルスクリーン 映画上映シリーズ

②国際エイズ会議 ‘94のパーティーとアートのこと

1994年に横浜でおこなわれた第10回国際エイズ会議の外で行われた文化的な活動を振り返り、10名ほどが熱心に話を聴いてくれました。

**参加者の感想：**

- 1994年当時の事を思い出しながらお話を聞きました。バブルが弾けたとは言え、まだまだ若者は元気な時代でした。今回のような時代を振り返る企画も良いと思いました。(50代、保健・医療・福祉関係、東京都)

**連絡先：**ノーマルスクリーン

URL:http://normalscreen.org/



## すきまミニ講座

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

講師：山田雅子 (AIDS文化フォーラムin横浜運営委員)



内容：運営委員で看護師の山田です。HIV/AIDSの周辺の事情は刻々と変化しています。知らない方には基礎情報として、知っているけれど最近アップデートのお手伝いとして「30分でわかる基礎講座」を行っています。今年のミニ講座はフォーラムのテーマ『伝えるむずかしさ』を意識して構成しました。HIV感染の治療は進化しAIDS発症予防の効果も高くなりました。今やHIV感染はたくさんある慢性疾患のひとつとしてなら変わらないと言ってよいかもしれません。注射薬の認可により選択肢も増え感染した人のQOLも向上してきています。しかしながら、現在の医療では完治として治療を終了することはなく、また感染した人の社会的な被差別、スティグマなど心理的負担がなくなったわけではありません。そういった中で声高に「予防しましょう！」と訴えることが適切なのかどうか・・・？伝えるむずかしさを感じます。

今年は1日目、2日目にHIV/AIDSを取り巻く医療情報と社会的状況、そして感染者や医療者の心理的状況についてお伝えしました、30分という時間は参加者の方も気楽に参加して頂けるようですので来年も継続しようと思います。

### 参加者の感想：

- 経験談をもとにしたメッセージがやはりわかりやすいです。(30代、保健・医療・福祉関係、群馬県)
- 伝えるためには受け止めることが大切という事を大切にしたいと思いました。(40代、保健・医療・福祉関係、神奈川県)

連絡先：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会



## 展示ブース

### アジアの女性と子どもネットワーク (AWC)

1995年からHIV/AIDSの啓発活動をしています。

内容：子ども買春・子どもポルノ禁止法は1999年の成立から25年が経ちました。これまでに2回の法律改正が行われてきましたが、いまだに子どもの被害が増え続けています。

2023年にはジャニーズ事務所のトップによる長年の性虐待・性搾取が発覚し、男子への性虐待がクローズアップされました。

最近では低年齢の子どもも被害を受けています。子どもの性的搾取は、身体的な傷のみならず、精神的影響は日常生活や成人後の社会生活にも長期的に課題を残します。

警察庁の発表によると子ども買春、子どもポルノの被害者数は増え続けています。

小学生以下のポルノ被害は盗撮による被害が全体の39%で、「自撮撮らせ」による被害は全体の38.8%を占めています。このほとんどが面識のない人から「グルーミング」と呼ばれる、性的な接触・搾取をする目的で子どもを手なづける行為により騙されて被害者になっています。また、AIの登場により、製造時の実在、非実在を根拠とした犯罪化の判断はほぼ不可能になっています。

今回は会場で、このような状況をDVDやパネルで来場の方々にお伝えし、法改正の要望書への署名もお願いしました。

連絡先：アジアの女性と子どもネットワーク

〒231-0015 横浜市中区尾上町3-39 尾上町ビル9F YAAIC 内

TEL&FAX :045-650-5430 E-mail:awc@h6.dion.ne.jp URL: <http://www.awcnetwork.org/>





## カトリック中央協議会HIV/AIDSデスク

日本のカトリック教会では1995年からHIV/AIDSの啓発活動をしています。

**内容:**私たちは、特に若い世代を対象にHIV/AIDSに関する正しい知識を広く伝え、偏見や差別を取り除くことを目指して活動しています。シンボルマークとして、2007年から十字架とリボンを組み合わせたオリジナルのレッドリボンを使用しています。

展示会場では、リーフレット「HIV/AIDSについて話したことがありますか」の改訂版とともに、トートバッグ、レインボーカラーとブルーのクリアファイルなどのグッズを頒布しました。



「カトリック教会がなぜここに？」と聞かれることもあります。私たちの小さな働きが、苦しんでいる人と共に苦しみ、笑う人と共に笑い、一人ひとりすべての人が神に愛されていることを伝えることができるようお願いしながら活動しています。

**連絡先: 日本カトリックHIV/AIDSデスク**

〒135-8585 東京都江東区潮見2-10-10

日本カトリック会館6階

TEL:03-5632-4414 FAX:03-5632-7920

E-mail:hivaidscbcj.catholic.jp

URL:http://cath-aids-desk.jp/



## 神奈川県ユニセフ協会

日本ユニセフ協会の協定地域組織として、広報、募金などのユニセフ協力活動を中心に地域に根ざした活動を行っています。

**内容:**昨年に引き続き今年も動画上映のほかに、新型コロナウイルス感染症の影響について展示しました。

HIVと共に生きる若者の総数は260万人に上り、10～19歳の女の子のHIV感染の総数は、2010年以降、19万人から9万8,000人へとほぼ半減しているものの、女の子がHIVに感染する可能性は、2022年においても男の子の2倍となっている報告。また、女の子がHIV感染の矢面に立ち続けているのは、その一因として、安全な性交渉のために交渉する力を持っていないようなジェンダー不平等があることを展示させていただきました。

展示と合わせて当協会が今年から取り組んでいるガーナ指定募金「児童婚を終わらせるために」のご案内も差し上げました。

**連絡先: 神奈川県ユニセフ協会**

〒231-0063横浜市中区花咲町2-57ミシナビル201

TEL:045-334-8950 FAX:045-334-8951

E-mail:info@unicef-kanagawa.jp

URL: https://www.unicef-kanagawa.jp



## ジェクス株式会社

コンドーム・潤滑ゼリーをはじめとした衛生用品を製造販売している大阪のメーカー。

**内容:** 私たちも業務の中で、ちょっとした言葉の選び方ですれ違いや混乱が起こってしまい「伝えるむずかしさ」を痛感しています。相手に合わせた単語や情報を選ぶように努めていますが、実際はこれがなかなか難しくトライアンドエラーの毎日です。今回もブースではコンドームや潤滑ゼリーなどを展示し、サンプルを配布しました。梅毒が若者間で急増していることや、現在の若者の恋愛状況、避妊や性感染症予防の大切さなど、立ち寄っていただいた方と会話をし、さまざまな考えに触れることで、私たちが学ばせていただくことの方が多かったように思います。また、グラマラスバタフライというコンドームブランドについては「高校生のころから使ってます！」「学生の時に持ってた、懐かしい！」「これから子どもにも渡して、性についての話をしておきたい」という声をいただき、サンプルを積極的に持ち帰っていただきました。性行為を開始する重要な時期に、弊社の商品に触れていただけたという報告に嬉しさを感じます。これからも望まない妊娠や性感染症の減少に貢献できるよう、性の入口に立つ子たちのための啓発活動を続けていきたいと考えています。

### 連絡先: ジェクス株式会社

〒540-0012 大阪府大阪市中央区谷町2丁目3番12号  
TEL: 06-6942-9002 URL: <https://www.jex-sh.jp/>



## 性教育いらすと

性教育に特化した無料イラスト素材集サイト。性感染症・避妊具・生理・LGBTQ+などのイラストがあります。

**内容:** 性教育などについて発信活動されている方々に無料のイラスト素材集サイト「性教育いらすと」を知っていただければと思い、今回初出展させていただきました。弊サイトではイラスト素材だけではなく、「月経ナプキンのつけ方と捨て方」「コンドームの正しいつけ方」のPDFデータを無料で配布しており、会場でも配布いたしました。学校関係者の方や学校で講演されている方から、PDFを印刷して学校でも配布して活用しますなどのお声をたくさんいただきました。物販でマスキングテープやガーランドの販売をしたところ、LGBTQ+フラッグのガーランドが一番好評でした。また当初から弊サイトを応援してくださっている方、利用されている方、SNSで見かけたことがある方などたくさんの方と直接お話することができ、そんな皆様のお役に立てるようより一層イラスト作成を頑張ろうと思いました。

### 連絡先: 性教育いらすと

無料イラスト素材集サイト「性教育いらすと」  
URL: <https://seikyoiuku-illust.com>  
お問い合わせ  
E-mail: [seikyoiuku.illust@gmail.com](mailto:seikyoiuku.illust@gmail.com)





## 性の健康イニシアチブ

「健康的な人間関係」を切り口にして性の話をしている民間団体

**内容:**2023年に続き2年目の参加となります。当会は、「私もOK、あなたもOK」な人間関係(=対等な人間関係、健康的な人間関係)を土台として、対人援助職向けの態度(アティチュード)の研修、性教育を実施している方々に向けた包括的セクシュアリティ教育や『国際セクシュアリティ教育ガイダンス』の読み解き方の研修、生活者の方に向けた「私もOK、あなたもOK」という考え方を広める活動を行っています。

また、現在新プロジェクトとして、「健康的な人間関係」を描くショートドラマの制作を進めており、YouTubeやInstagramでの公開を予定しています。

今年、ブースでは、

- ①性の健康について学ぶためのオススメ書籍の販売
- ②上記の新プロジェクトについてお知らせするフライヤーの配布を行いました。

日本における性教育は、長い間、「妊娠/避妊」「性感染症予防」といったメディカルな話題が中心となっていたため、かつては、人間関係の話をしていると「それは性教育なのか？」という疑問を持たれることが多くありましたが、今年ブースを訪れた方のほとんどは「人間関係の視点から性の話をしている」という説明をすんなり理解してくれた様子でした。性教育において人間関係の話題は不可欠であるという理解が広がっていることを感じました。

HPのブログに報告記事を載せました。

⇒<https://sexualhealth-initiative.org/reportbooth2024080204>



**連絡先: 性の健康イニシアチブ**

URL: <https://sexualhealth-initiative.org> E-mail: [hello@sexualhealth-initiative.org](mailto:hello@sexualhealth-initiative.org)

## ナルコティクスアノニマス 私たちは必ず回復する

ナルコティクスアノニマスは薬物依存からの回復を目指す当事者の、国際的かつ地域に根ざした集まりです。



**展示内容:**NAについての紹介、ミーティングの案内、NA資料、実際に使われているテキスト。

**感想:**ここ近年で、一番ブースに立ち寄っていただけの方が多かったです。特に福祉・医療関係の方が多く、南関東以外のエリアをご紹介する事も出来ました。

**連絡先:ナルコティクスアノニマス** E-mail: [naminamikanto.pi@gmail.com](mailto:naminamikanto.pi@gmail.com) URL: <https://najapan.org>

## 日本HIV情報センター (Japan HIV Information Center)

JHICは、皆が共に生きる社会を目指し、HIV/AIDSに関する情報提供、相談などを行う非営利団体です。

**展示内容:** 今年のブースは、昨年と同じく「ユニークなコンドームの展示」、それから新しい試みとして、来場された方々から「セーファーセックス」について、付箋に一言メッセージを書いていただきパネルに貼りました。後は、ミニメッセージキルトと、猛暑の中なので涼しげな海系でレイアウトしました。

昨年のJHICの参加報告でも、時代は「HIV/AIDSと言う未知の病について学ぶ」から、「誰もが自分の性のあり方について考え共有する」へと変わっていることを実感すると書きましたが、今年は更に深めて、「教える」のではなく「一緒に考える」展示として、付箋メッセージを試みました。

素晴らしいメッセージがたくさんありました。特に、多くの方が「セーファーセックス＝自分を守る」ではなく「相手を大切にすると捉えて下さっていて、1つ1つの言葉がJHICの宝物となりました。岩室紳也先生の講演をきっかけに、自主的にグループを結成した高校生達にも出会え、長年、多くの人や団体が啓発を続けていることが実を結んでいると実感出来た、素晴らしい3日間でした。

**連絡先:** 日本HIV情報センター(JHIC)

E-mail: [jhic.jpn@gmail.com](mailto:jhic.jpn@gmail.com)

URL: <https://sites.google.com/view/jhic/>

X(Twitter): @jhic2020jpn\_hiv



## 日本ハビタット協会

日本ハビタット協会は、国連ハビタット(国連人間居住計画)とともに世界中の人々が安全で安心して暮らせるまちづくりを推進しています。

**展示内容:** 展示ブースにて、現在当協会がケニア西部ホームベイ郡にて実施している生理環境改善による女性のエンパワーメント事業について紹介しました。事業内容を説明するパネルのほか、ケニアの農村部で市販されている生理用ナプキンやコットン、ケニアの女性たちが手作りした布ナプキンや生理用ショーツ、石けんを展示しました。古着から作られた布ナプキンや生理用ショーツや、アボカドなどの天然素材を使った石けんを手にとった来場者からさまざまな感想や意見をいただくことができました。

ケニアでは性や生理の話をするのがタブー視され、また生理に対する偏見があるため、女性は正しい知識を身に付けることができません。そのような状況を紹介しつつ、一方で日本での性や生理、女性を取り巻く問題についても考えるきっかけにもなったのではないかと感じています。

**連絡先:** 認定NPO法人日本ハビタット協会

〒102-0092東京都千代田区隼町2-12

藤和半蔵門コープ103号

TEL&FAX: 03-3512-0355

E-mail: [info@habitat.or.jp](mailto:info@habitat.or.jp)

URL: <https://www.habitat.or.jp>





## 横浜AIDS市民活動センター

市民のみなさまに、エイズ・HIV関連の情報提供をする団体です。ニュースレターやメールマガジンの発行、学校への出前授業、啓発資料や図書の貸出、イベントや学習会の企画などを行っています。

**内容:** 当センターのゆるキャラ「コムちゃん」と一緒に参加させていただきました。コムちゃんは、名前を覚えてくださっている方も多く、たくさんの方に声をかけていただきました。展示ブースでは、エイズ/HIVに関する資料に加え、その他の性感染症に関する冊子やLGBTQに関するパンフレットなど、幅広い資料を展示・配布させていただきました。

看護学生さんや養護の先生をはじめ、多くの来場者に積極的に資料を手にとっていただきました。他の出展団体の方々とも交流を図ることができ、有意義な機会となりました。開催にご尽力いただいた皆様に感謝いたします。

フォーラムには、もともとエイズ/HIVへの意識や関心のある方が来場されますが、近年では新型コロナウイルスの影響もあり、人々のエイズへの関心が薄れつつあると思われるため、フォーラムの熱量を一般にも広げられるような活動を進めていきたいと思いました。

**連絡先: 横浜AIDS市民活動センター**

〒231-0015 横浜市中区尾上町3-39 尾上町ビル9階

TEL:045-650-5421 FAX:045-650-5422

E-mail:info@yaaic.gr.jp URL:https://yaaic.gr.jp/



## Stand Still 性暴力サバイバービジュアルボイス写真展

性暴力サバイバー自らが、公に声をあげずとも写真でその世界を表現することで、相互エンパワメントを目指すプロジェクト。

**展示内容:** 16点の作品を展示し、展示会場にお越しの方多数にご覧いただきました。静かにじっくりとご覧くださる方、少し離れてご覧の方、複数回ご覧くださる方、スタッフに感想を伝えてくださった方、それぞれ自由な見方で、感じ方も様々な様子でした。

**連絡先: STAND Still**

神奈川県横浜市

E-mail:standstilljapan@gmail.com

URL:https://standstill.jimdofree.com/



## 運営委員会主催ワークショップ

内容: 今年は夏らしい色とりどりのアイスクリームにレッドリボンをあしらって、バッジ/ブローチのように着けて頂けるデザインにしました。たくさんあるパーツから好きなものを選んでアイス进行デコレーションして楽しみながら参加して頂けたと思います。作りながら、性教育の難しさを語りあったり、夏休みの宿題の話をしたりと講座だけでなく展示会場ならではの、ゆったりとした時間を共有できたと思います。作ったレッドリボン付アイスバッジがHIV感染予防の啓発などにご活用頂けたら嬉しいです。



### 参加者の感想:

- 可愛くて個性が出て楽しかった！他の講座でカミングアウトの話があったが、カミングアウトされる側がALLYであることを示せる何かがあるといいなと思う。

連絡先: AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会



## 閉会式 ~広がるAIDS文化フォーラム~

### ~AIDS文化フォーラム in 陸前高田 横浜 名古屋 京都 佐賀~

閉会式では、まず恒例の全国のフォーラム開催報告と告知が行われました。今回、参加が叶わなかった陸前高田の佐々木さんからのメッセージが紹介され、ここでは「伝える側と伝えられる側がつながることは簡単ではないが、それを可能にするのは対話を続けられる場と環境である」と述べられ、さらに31回もの間継続して開催されている横浜のフォーラムへの感謝とエールも送られました。そしてボランティア小塚さん制作のライドショーが上映され、3日間の活動が振り返られました。参加者全員が充実した時間を共有し、これからも対話と共感を基盤にしたフォーラムでの再会を誓う場となりました。



ABF名古屋も

高校生ボランティア作成動画

ABF京都へ

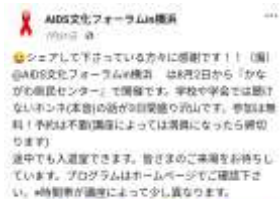
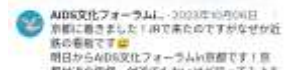
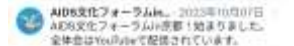
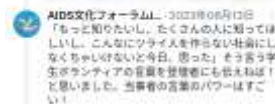
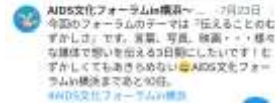
楽しかった。来年も岩手から来ます。



# SNS活動

## フォーラムのリアルを SNSで発信しました。

例年通りX(旧Twitter)とFacebookによる情報発信を続けていますが、Instagramを昨年のフォーラム終了後に開設しました。今年のフォーラムはInstagram開設後、初の開催でしたので、会場の雰囲気や投稿やストーリーズの更新を行いました。各種SNSでは他の地域のフォーラムの案内や、オフシーズンの活動も時々投稿していきますので、ぜひフォローして最新情報を楽しみにしてください。



※Instagramの投稿の位置情報 正しくはかながわ県民センターです。

# フォーラム全体集計表

## ◆全体集計推移（2020～2024）

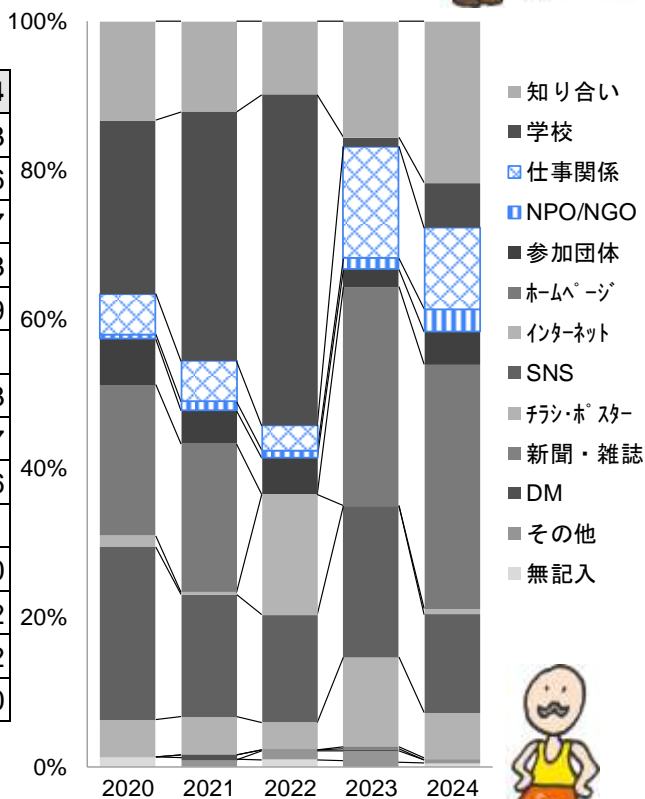


### 1. 何で知ったか

	2020	2021	2022	2023	2024
知り合い	125	134	85	52	93
学校	219	369	386	4	26
仕事関係	51	60	29	50	47
NPO/NGO	6	14	9	5	13
参加団体	58	49	42	8	19
ホームページ	191	220	0	98	141
インターネット	14	4	141	0	3
SNS	219	181	125	68	57
チラシ・ポスター	47	56	32	40	26
新聞・雑誌	0	0	0	1	1
DM	0	8	1	1	0
その他		10	11	7	2
無記入	12		8		2
計	942	1105	869	334	430

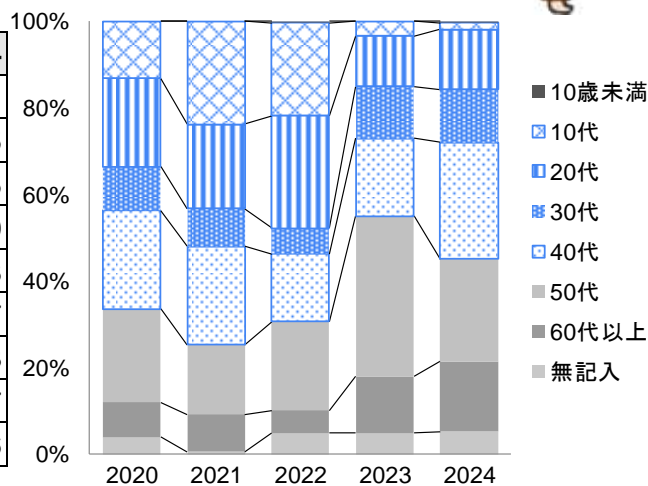
※SNS：Facebook 34、Twitter 33

Instagram 1



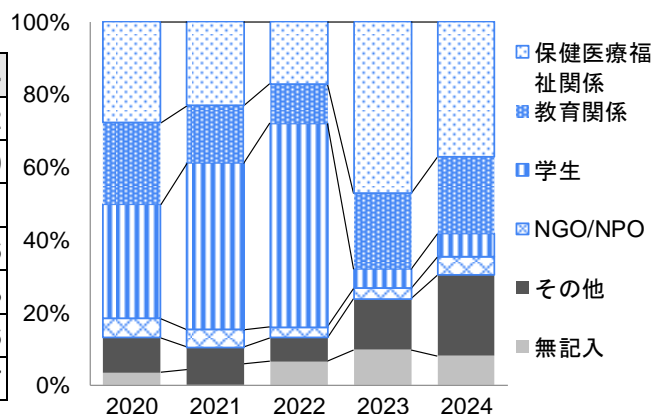
### 2. 年齢

	2020	2021	2022	2023	2024
10歳未満	0	0	2	0	1
10代	91	192	145	7	5
20代	141	157	176	24	45
30代	70	70	40	25	40
40代	157	184	106	37	88
50代	149	130	139	77	77
60代以上	56	70	35	27	53
無記入	27	4	33	10	17
計	691	807	676	207	326



### 3. 職業等

	2020	2021	2022	2023	2024
保健医療福祉関係	192	187	116	98	122
教育関係	156	127	73	43	69
学生	217	370	379	11	21
NGO/NPO	36	39	20	6	16
その他	66	84	44	29	73
無記入	24		44	20	26
計	691	807	676	207	327





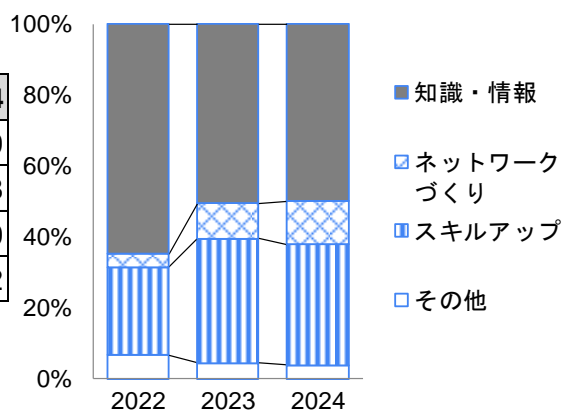
## ◆2024年アンケート回答者の居住地（都道府県別）

地域	都 道 府 県								小計
北海道・東北	北海道	青森	岩手	秋田	宮城	山形	福島		5
			3				2		
関東	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川		243
	10	9	11	5	5	52	151		
中部1	新潟	富山	石川	福井	山梨				9
					9				
中部2	長野	岐阜	愛知	静岡					25
	11		6	8					
近畿	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山		18
	8		1	7		2			
中国	鳥取	島根	岡山	広島	山口				0
四国	徳島	香川	愛媛	高知					0
九州・沖縄	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	7
		1	1					5	
海外・その他								その他	1



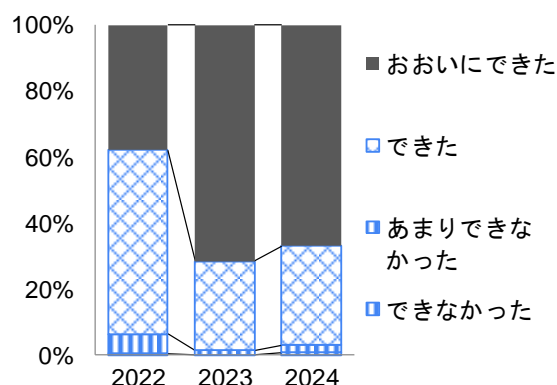
### 4. 来場目的（複数回答）

	2022	2023	2024
知識・情報	604	180	279
ネットワークづくり	35	36	68
スキルアップ	233	125	190
その他	62	16	22



### 5. 来場目的は達成したか（複数回答）

	2022	2023	2024
おおいにできた	253	148	213
できた	372	56	95
あまりできなかった	39	3	7
できなかった	4	0	3



2024年はオープニングのみハイブリッド開催としました。遠方からの来場者は減るかと思いましたが、北は岩手、南は沖縄から参加いただきました。来場目的が達成できた方が大半で、ネットワークづくりが進んだことが何よりでした。

## AIDS文化フォーラム in 横浜 31回の歩みー開催概要と経緯ー

## 第1回(1994年)～第8回(2001年) 開催概要

開催年	回数	テーマ	プログラム数	参加団体数	会場	入場者数	開催日数	話題／社会	来場者傾向
1994	1	市民と海外NGOによる AIDS会議	58	40	国際交流協会 神奈川県	4,305	9日間	市民のエイズ会議 国際AIDS会議開催	地元市民 中心
1995	2	ともに生きる	31	26		2,200	3日間	母親が語る薬害エイズ 薬害報道の増加	
1996	3	ともに生きるから連帯へ	34	28		1,600		性風俗とAIDS 薬害／薬害和解	
1997	4	未来へのつどい	72	56	4,607	映画・秋桜 カクテル療法		全国から 参加	
1998	5	エンパワメント～ 自立と協働に向けて	76	50	5,694	TV・神様もう少しだけ HIV感染者の身体障害者認定			
1999	6	いまを生きる	70	47	3,240	複数作家の写真展 ピル解禁・感染症予防法施行		医療・教育 の 専門職増加	
2000	7	いま一人ひとりができること	64	49	3,801	女性プログラム 女性用コンドーム・薬物乱用			
2001	8	いま一人ひとりができること	72	52	3,946	バリアについて考える ハンセン病に学ぶ			

## 第1回(1994年)～第8回(2001年) 主な内容

## 市民による市民に開かれた手弁当フォーラム！

高額な参加費がかかる医療関係者中心の第10回国際エイズ会議(横浜)に対して、市民のためのエイズ会議を市民の手で実施しようという趣旨で始まりました。

- 第1回(1994年)：社会の中で偏見と差別のみ語られていたAIDSという病気に対し、ボランティアの働きによる新しい市民レベルの社会へのアプローチとして当時高い評価を得ました。
- 第2回(1995年)～第3回(1996年)：「第1回での成果を一過性のものに終わらせることなく、継続して欲しい」というAIDSに関わるNGO等からの強い要望があり開催を継続してきましたが、社会的な関心の薄れと共に、参加者数の減少など様々な課題が明らかになりました。

## 第1回～第3回

## AIDS文化フォーラム

【第1回】1994年10月14日～15日  
【第2回】1995年10月14日～15日  
【第3回】1996年10月14日～15日



## 第4回～第6回

## 新たな工夫と挑戦へ！～量から質へのシフト

徹底した評価・検証の中で、より積極的な取り組みを行いました。会場をかながわ県民センターへ変更したことに加え、運営体制の見直し、そして参加者のニーズにあうようにプログラムの充実化を図りました。

- 第4回(1997年)：「PWA (People with AIDS) のネットワーク」をテーマとし、PWAs名がプレゼンターとなるなど、HIV陽性者の方々の積極的な協力がありません。
- 第5回(1998年)：治療薬が増え、HIV感染症は慢性疾患になったと言われ始めました。テレビドラマ「神様、もう少しだけ」がヒットし、社会的関心が高まり、主演の深田恭子さんも来場しトークを行いました。
- 第6回(1999年)：1日のコマ設定を4コマから3コマに減らしたことで、各コマとも落ち着いた議論と交流が可能となりました。

## 第7回～第8回

## 専門職来場者の増加～継続することの意味を確認

従来からの「専門職が一般市民を指導・啓発する」という発想を超えて、「市民側から専門職に情報交換の場と市民の手法を学ぶ場を提供していく」というように逆転してきました。全国の医療や教育の専門家からも期待される横浜の夏の恒例行事として定着しました。

- 第7回(2000年)：恋人とのセックスでHIVに感染した北山翔子さんやタレントの岡田美里さんのトーク、女性用コンドーム、ピル、と「女性」をテーマとしたプログラムが多く組まれました。
- 第8回(2001年)：パラリンピック金メダリストの成田真由美さんとHIV陽性者の桜屋伝衛門さんのトークを通して「障がい」という視点でHIV/AIDSの問題を改めて考える機会となりました。



第9回(2002年)～第17回(2010年) 開催概要

開催年	回数	テーマ	プログラム数	参加団体数	会場	入場者数	開催日数	話題/社会	来場者傾向
2002	9	つながるつながる	81	56	かながわ県民センター	4808	3日間	国際NGOによる講座 FIFAワールドカップ日韓大会	国際NGO等 幅広く拡大
2003	10	AIDSこれまでの10年、 これからの10年	74	55		4624		七生養護学校事件 北半球でSARS感染拡大と終息	
2004	11	いのち ～市民が続けるAIDSへの取り組み	83	66		6031		若者の参加 国際エイズ会議(バンコク)	
2005	12	つながる空間	74	60		5509		アジア太平洋地区 エイズ・神戸会議開催	
2006	13	つながる空間 ～Living Together～	72	56		3880		第20回日本エイズ学会会長に NPO代表の池上千寿子さん	文化的 側面からの アプローチ 増加
2007	14	つながる	71	56		3689		かながわレインボーセンター SHIP開所	
2008	15	つながる ～いま、私にできること～	75	60		4170		第4回アフリカ開発会議横浜開催 リーマンショック	
2009	16	他人ごと?!	55	54		3547		新型インフルエンザ 民主党への政権交代	
2010	17	他人ごと??	52	52		3296		猛暑 1ドル80円台	

第9回(2002年)～第17回(2010年) 主な内容

第9回～第12回



■第9回(2002年)：自らカンボジアなどでボランティア活動をしている有森裕子さんの話に多くの人が勇気付けられました。

先進国で唯一エイズ患者が増え続ける日本の状況を憂慮し、若者へのアプローチを強化しました。若者主体の企画や演劇・映像・音楽・アートを活用した、若者を引きつける会場運営を心がけた結果、多くの来場者を迎えることができました。

■第10回(2003年)  
脚本家の早坂暁さんが「HIV/AIDSを題材に番組を制作するとしたら」という設定で、俳優の鳥丸せつ子さんと参加者と共にドラマストーリーを考えました。また、若者の覚醒剤問題に体を張って取り組む水谷修さん(夜回り先生)の講演に多くの参加者が集まり、関心の高さがみられました。

■第11回(2004年)：飯島愛さんを迎えて、エイズ・愛・セックスについてのトークショーを行いました。愛さんの明るいキャラクターと会場参加型の企画に大いに盛り上がりしました。



■第12回(2005年)：  
飯島愛さんと北山翔子さんがそれぞれの実体験をもとに人を愛すること、そして生きることをテーマに語られた言葉は、来場者の心に深く響きました。また、会場ボランティア数は110名と過去最高でした。

つながる空間、「他人ごと」から「本音の対話」へ

第13回～第17回

ネットワークを広げ連携を深めるために、HIV/AIDSに関する様々な活動に携わる団体・個人との対話の場が増えました。その中で宗教や立場・活動・体験は違っても、豊かに共に生きることを教えられ、「つながる」ことの大切さを確認することができました。

■第13回(2006年)  
「エイズと宗教を語る」では、仏教徒、キリスト教徒、HIV陽性者の3者がそれぞれの立場から違いを超えて「つながる」ことの大切さを語りあいました。また、参加者から発表者となった医大生の遠見才希子さんがピア講座を担当するなど若者の活躍がみられました。日本エイズ学会の会長に、NPOの代表の池上千寿子さんが就任した、画期的な年でした。

■第14回(2007年)  
3名のHIV陽性の当事者がそれぞれの主治医とともに、患者と医療者の関係性(パートナーシップ)をテーマに語り合いました。長年にわたるエイズ医療に共に取り組むためにはコミュニケーションやカウンセリングを通して信頼関係を構築することが重要であると訴えました。

■第15回(2008年)  
教育関係のニーズに応え15もの教育を視点としたプログラムが開催されました。中でも学校でのエイズ教育を念頭においたセッションをエイズ教育シリーズとして紹介し、最終日に「徹底討論～エイズ教育に求められるものは何か」では、本音で意見を交わしました。

■第16回(2009年)  
正しい知識だけでは予防ができません。HIV/AIDSを他人事(ひとごと)と思っていた当事者たちの声に耳を傾け、医療関係者が、教育関係者が、宗教関係者が、そして参加者の一人ひとりがつながる中で、自分自身の課題と考える第一歩を踏み出しました。

■第17回(2010年)  
妊娠時にHIV感染がわかった石田心さんのトークセッション。閉会式は5年前のフォーラムでピアエデュケーションに目覚め、今や全国を飛び回っている遠見才希子さんが、医学生最後の年に司会を務めました。

開催年	回数	テーマ	プログラム数	参加団体数	会場	入場者数	開催日数	話題／社会	来場者傾向
2011	18	エイズの何を知っていますか？ ～変わる常識～	64	44	かながわ県民センター	3,255	3日間	東日本大震災 福島原発事故	被災地とのつながり
2012	19	AIDS??文化?? ～仲間 新発見！～	69	53		3,184		第26回日本エイズ学会横浜開催	専門職の増加
2013	20	これまでの20年 これからの20年	70	56		4,278		京都、陸前高田でAIDS文化フォーラム開催 全国3か所に広がる	参加者増で賑わう
2014	21	未来につなぐ新たな船出	69	56		4,165		佐賀でAIDS文化フォーラム開催 全国4か所に広がる	心機一転
2015	22	今こそ、ともに生きる	67	54		3,701		LGBTの権利拡大 渋谷区条例など	交流拡大
2016	23	つながる ひろがる わかちあう	66	55		3,542		津久井やまゆり園事件	10代増加
2017	24	リアルとであう	65	49		6,394		名古屋でAIDS文化フォーラム開催 全国5か所に広がる	入場者増加
2018	25	#リアルとつながる	62	47		5,355		AIDS文化フォーラム記念切手作成 SNSによる情報発信開始	25周年を意識
2019	26	<話す>と<リアル>に！！	58	45		4,347		YouTubeライブ配信に挑戦	オンラインの つながり
2020	27	リアルにふれる 一人ひとり大切なことを探してみよう	24	16		オンライン		4,076	オンライン開催 新型コロナ感染拡大・オリパラ延期
2021	28	ともにいきる つながりの参加者になる	24	21	2,983	新型コロナデルタ株流行 東京オリパラ無観客開催			
2022	29	文化 ～くりかえされるもの うまれるもの～	23	13	県民センター	3,096	ハイブリッド開催 新型コロナ第七波		
2023	30	未来をみつめて	41	31	かながわ 県民センター	3,067	対面開催（一部配信） 梅毒流行	ピンポイント参加	
2024	31	伝えるむずかしさ	38	28		1,770	オープニング企画のみ配信 他はリアルのみ	リアルな交流を満喫	

第18回(2011年)～第31回(2024年) 主な内容

第18回～第21回

つながりが、絆がAIDS文化フォーラム in 横浜・京都・陸前高田・佐賀に

- 第18回（2011年）：オープニングで陸前高田市の方々が被災地の状況を報告。10月には「AIDS文化フォーラム in 京都」開催。これまでのフォーラムを通してできたつながりが新たな絆につながっていきました。
- 第19回（2012年）：AIDS文化フォーラム in 京都や日本エイズ学会（横浜）とのつながりにより、HIV/AIDSを文化の視点で考えることの大切さを実感。
- 第20回（2013年）：陸前高田でAIDS文化フォーラムが開催された。20年を区切りにせず、新たな広がりを持ったフォーラムに。
- 第21回（2014年）：AIDS文化フォーラムが佐賀に広がる。多くの人や地域からのサポートがあってその継続や広がりを実感！

第22回～第23回

つながる・ひろがる・わかちあう

- 第22回（2015年）  
事務局が1階に移り、展示・交流スペースでの交流が活発に。予防啓発に加え、一人ひとりが生きていくために、いま、何が求められているかを、いろいろな人たちと一緒に考える時代になりました。
- 第23回（2016年）  
熊谷晋一郎先生の「自立は依存先を増やすこと」に学び、病気や障がいを抱えている人だけではなく、一人ひとりの生き方、支え合い方を考えるフォーラムになりました。

第24回～第26回

「リアル」がキーワード？

- 第24回（2017年）  
バーチャルなことが溢れる世の中になったからこそ、「リアルとであう」大切さを再確認しました。その思いを結集すべく、SNS等を広報にも積極的に取り入れた結果、入場者数が一気に増えました。
- 第25回（2018年）  
気が付けば25年、四半世紀。当初からHIV/AIDSをとりまく様々な文化とつながり続け、「つながりから考える薬物依存症」という書籍も誕生するなど、HIV/AIDSに学び続けている人たちが集うフォーラムの成長を実感した年でした。
- 第26回（2019年）  
HIV感染、同性婚、薬物使用、AVについて、一人ひとりがリアルに「話す」ことでこそ理解が進むことを実感することができました。

第27回～第31回

新型コロナウイルスの影響を乗り越え??? みつめる未来は・・・

- 第27回（2020年）  
新型コロナウイルスの感染拡大により、ZoomやYouTubeライブを用いたオンラインセミナー、動画による活動紹介等、全企画をオンライン配信で行いました。全都道府県、海外からもアクセスがあり、コロナ禍でも歩みを止めなかったことへ多くのエールをいただきました。
- 第28回（2021年）  
ハイブリッド開催をめざして準備しましたが、デルタ株の流行により今回もフルオンラインでの開催に。懇親会で長年お世話になってきた「迎珍」閉店の知らせに、集えないうもどかしさややるせなさを感じました。
- 第29回（2022年）  
かながわ県民センターとオンラインでのハイブリッド開催で実施し、映画上映等の企画が復活しました。オープニングでは、なぜAIDS「文化」フォーラムなのかという話を改めて確認することができました。
- 第30回（2023年）  
会議室での対面講座が復活し、多くの会場に参加者との交流が復活しました。企画展示場はハコ館作家コケ丸さんの「極私的梅毒展」、もたいひでのりさんによる30回のメッセージボード等のカラフルな展示に彩られました。
- 第31回（2024年）  
配信はオープニング企画のみで、ホールや会議室での講座をすべて対面としたことで多くの方々の交流が推進されました。会議室の講座を90分としたことで展示場が賑わったものの、準備日を含め、より効率的な運営が求められました。



## 第31回AIDS文化フォーラム in 横浜を支えた人たち

### ■主催 AIDS文化フォーラム in 横浜組織委員会

HIV/AIDS問題に取り組む団体の代表者で構成されています。「AIDS文化フォーラムin横浜」を主催し、その社会的責任を負います。

◇公益財団法人横浜YMCA 佐竹博(組織委員長) ◇社会福祉法人横浜いのちの電話 松橋秀之  
◇カトリック横浜教区 鈴木真 ◇ワイズメンズクラブ国際協会東日本区湘南・沖縄部 久保勝昭

### ■共催 神奈川県

毎年、共催として会場「かながわ県民センター」を提供しています。また、組織委員会、運営委員会にも列席し、関係者への参加依頼や広報をはじめとした事前準備にも協力しています。

担当:神奈川県健康医療局保健医療部健康危機・感染症対策課



### ■助成金 公益財団法人エイズ予防財団

令和6年度エイズ予防財団助成金「エイズ予防に関する啓発普及事業」として、横浜、京都、陸前高田、佐賀、名古屋での「AIDS文化フォーラム」開催による普及啓発に助成していただきました。

### ■後援

◇横浜市医療局健康安全課 ◇川崎市 ◇相模原市 ◇横須賀市 ◇藤沢市 ◇茅ヶ崎市  
◇横浜商工会議所 ◇神奈川県教育委員会 ◇公益財団法人エイズ予防財団 ◇神奈川新聞社 ◇tvk

### ■企画運営

#### AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

フォーラムを運営するボランティアの集まりです。医師、保健師、教師、NGO/NPO関係者、アーティスト、共催の担当者、フォーラム大好きでずっと関わりを持っている人など、色々な立場の人がフォーラム開催に向けて年間を通して活動しています。

伊東和子 岩室紳也 大江浩 糟谷潤 金井多恵 川島真理子 櫻井純子 白井美穂 高村文子 千代木ひかる 鳥居咲希 島山雅行 宮崎豊久 母袋秀典 矢部尚美 山田雅子 吉永陽子 渡辺誠二 猪谷亜子 大塚英彦 熊谷洗介 桜屋伝衛門 佐藤睦 彦根倫子 前田陸生 三宅晶子

### 当日ボランティア

金子園子 小塚優 斎優希 高木義仁 徳山亮 松澤千夏 山崎瑠斗(他多数)

※公募経路でお名前掲載可と承諾する方、毎年協力してくれる方のお名前を掲載

### ■事務局 横浜YMCA

組織委員会、運営委員会の円滑な運営、年度を超えての継続的な開催を補佐します。30年前にフォーラムを立ち上げる際の呼びかけ人となった横浜YMCAが継続して事務局を務めています。

担当:横浜YMCA 国際・地域事業 柳原絵里子・肖欣怡・石川晴美

**編集後記** 31回目を迎えることができたAIDS文化フォーラム in 横浜ですが、内容的にはHIV/AIDSを通して明らかになった社会に広がっている様々なリスクに対する学びが深まりました。一方で土日の会場が十分確保できなかったことと、PR不足の反省から来場者数が今一つ伸び悩んだので、次年度は会場の確保にむけた作戦会議が重要と思われました。様々な都合で配信を希望される方も少なくありませんでしたが、フォーラムがネットワークキングの場だという基本に立ち返ると、さらなる工夫をしつつ、今年のような開催方法を次年度も続けたいと思いました。(岩室紳也)

## AIDS文化フォーラム in 横浜組織委員会規約

### 1. 名称

この会は「AIDS文化フォーラム in 横浜 組織委員会」と称する。  
（以下、「組織委員会」と略す）

### 2. 趣旨

1994年8月に横浜で開催された第10回国際エイズ会議を機に、市民の手による全ての人に開かれた場として「AIDS文化フォーラム in 横浜」を開催してまいりました。回を重ねていく中で、全国各地でHIV/AIDSに取り組む各団体・個人の発表・交流の場として、また多くの市民、特に若い人々に向けての啓発の場として定着してまいりました。組織委員会は、このフォーラムの主催者として、偏見や差別をなくし、制度や利害の壁を乗り越えて、いつの時代にも、だれもが一人の人間としての尊厳を保ち、共に生きていく世界を築く事を目指して、市民の手による、市民のための、すべての人に開かれた集いを開催します。

### 3. 目的

- 1) 広く市民に開かれたフォーラムとする。
- 2) 若い世代、特に学生の参加を期待して、工夫する。
- 3) すべてがボランティアによる、市民の手による、市民のための、手弁当型のフォーラムとする。
- 4) AIDSボランティアと市民の交流の機会とする。
- 5) AIDSに日ごろから関係する団体やグループがフォーラムの進行をリードする。
- 6) AIDS関係団体、グループのネットワーク形成・交流の機会とする。
- 7) AIDSに関する多面的な啓発活動を行う。
- 8) AIDSについて、医学面や政策面のみではなく、文化面から積極的に捉える。
- 9) AIDSへの様々な取り組みの中で、一人ひとりが共に生き、連帯し、未来への希望をつなぐために力をつける（エンパワーメント）集いとする。



### 4. 構成

組織委員会は、エイズ問題に関心を持つ諸団体の代表者で組織する。

### 5. 委員長

委員長は、組織委員会の中から互選により選出し、組織委員会を代表する。

### 6. 組織委員会の開催

組織委員会は年4回、委員長の招集により開催する。また、必要に応じて委員長が必要と認めた場合に開催することができる。

### 7. 組織委員会の役割

「AIDS文化フォーラム in 横浜」開催の主催者となり、このフォーラム開催に関して最終責任を負う。

### 8. 運営委員会の設置

組織委員会の下に運営委員会を設置し、フォーラムの企画運営を委託する。組織委員会は運営委員会の働きを監督、支援する。運営委員は、HIV/AIDS問題及びフォーラムに関わるボランティアメンバーの中から選出する。

### 9. 事務局の設置と役割

組織委員会の事務局を横浜YMCA内に設置する。

常設の事務所を横浜YMCAに設置し、スタッフ2名が担当する。

事務局の役割は次の通りとする。

- 1) 組織委員会・運営委員会との連絡調整を行い、フォーラムの円滑な運営を助ける。
- 2) 予算を管理する。
- 3) 年度を越えての継続的な開催を補佐する。

### 10. 財政

フォーラムの運営に必要な経費は、組織委員会主催（運営委員会へ委嘱）の事業収益・寄付金、助成金及び組織委員会を構成する団体からのキーマネーをもってまかなうものとする。年度のキーマネーは、1団体につき20,000円とする。

### 11. 年度及び任期

組織委員会の年度は毎年4月から翌年3月までとする。

組織委員の任期は1年とする。ただし再任を妨げない。なお次年度の委員については、当年度最終の委員会で選出する。

### 12. その他

この規約に定めるものの他、組織委員会の運営に関して必要な事項は組織委員会の議を経て定めるものとする。

（付則）この規約は、2008年4月7日から施行する。



**協賛・寄付**

**ご協力に感謝申し上げます**

ヴィーブヘルスケア株式会社 〒107-0052 東京都港区赤坂1-8-1赤坂インターシティAIR TEL : 03-4231-5150 FAX : 03-6837-5744 URL : <a href="https://viivhealthcare.com/ja-jp/">https://viivhealthcare.com/ja-jp/</a>	ギリアド・サイエンシズ株式会社 〒100-6616 東京都千代田区丸の内1-9-2グラントウキョウ サウスタワー16階 URL : <a href="https://www.gilead.co.jp/">https://www.gilead.co.jp/</a>
ジェクス株式会社 〒540-0012大阪府大阪市中央区谷町2-3-12 マルイト谷町ビル11階 TEL : 06-6942-9002 URL : <a href="https://www.jex-sh.jp/">https://www.jex-sh.jp/</a>	一般社団法人ワイズメンズクラブ国際協会東日本区 〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町2-11 日本YMCA同盟会館2階 TEL : 03-5367-6652 URL : <a href="https://comeon.ys-east.or.jp/">https://comeon.ys-east.or.jp/</a>

**参加団体等名称・索引**

◆名称順

アジアの女性と子どもネットワーク .....P24

相賀佳代子 .....P9

阿部友理 .....P9

有馬祐子 .....P9

岩室紳也(コンドームの達人) .....P6,8,10,13,16,18,19,22

岡田百合香 .....P22

風間暁 .....P10

カトリック中央協議会HIV/AIDSデスク .....P25

神奈川県歯科医師会 .....P21

神奈川県ユニセフ協会 .....P25

北山翔子 .....P8

公益財団法人横浜YMCA .....P14

厚生労働科学研エイズ対策研究班 .....P14

斉藤章佳 .....P13

彩の国思春期研究会 .....P8

椎名雄一 .....P11

ジェクス株式会社 .....P26

清水美春 .....P6

性教育いらすと .....P26

高久陽介 .....P6

高橋幸子 .....P6

特定非営利活動法人パープル・ハンズ .....P9

性の健康イニシアチブ .....P20,27

セクテル .....P19

平良愛香 .....P16

塚本堅一 .....P10

特定非営利活動法人かながわ外国人すまいサポートセンター  
.....P15

鳥居咲希 .....P23

ナナさん .....P16

ナルコティクスアノニマス(NA) .....P23,27

日本HIV情報センター(JHIC) .....P28

日本ハビタット協会 .....P12,28

ノーマルスクリーン .....P23

ピースさん .....P10,16

福正大輔 .....P16

古川潤哉 .....P12,16

星野貴泰 .....P13,19

星野慎二 .....P17

松本俊彦 .....P10

マリ クリスティーナ .....P12

水谷修 .....P22

宮崎豊久 .....P8,13,16,18,22

葉害エイズを考える山の手の会 .....P21

山田雅子 .....P11,19,23,24

早稲田大学性的同意ハンドブックチーム .....P15

横浜AIDS市民活動センター .....P29

横浜YMCA国際・地域事業 .....P10

◆アルファベット団体名

AIDS文化フォーラム in 京都 .....P30

AIDS文化フォーラム in 佐賀 .....P30

AIDS文化フォーラム in 名古屋 .....P30

AIDS文化フォーラム in 横浜  
.....P6,10,11,13,16,17,19,22,23,24,30

AIDS文化フォーラム in 陸前高田 .....P30

SPAWhite .....P20

STAND Still .....P17,29



2024 (第31回) AIDS文化フォーラム in 横浜 報告書

発行日： 2024年11月10日  
 発行者： AIDS文化フォーラム in 横浜組織委員会  
 編集： AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会  
 イラスト協力： もたいひでのり  
 連絡先： AIDS文化フォーラム in 横浜事務局  
 〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7横浜YMCA内  
 E-mail : [abf@yokohamaymca.org](mailto:abf@yokohamaymca.org) URL : <https://abf-yokohama.org/>



Facebook X(旧Twitter) Instagram



TEL : 045-662-3721 FAX : 045-651-0169

みんなの本音が聴ける 語れる

# 第32回 AIDS文化フォーラム in YOKOHAMA

期間 2025 8月上旬 (日程が決まり次第 HP でご案内します。)

会場 かながわ県民センター (横浜駅西口 徒歩 5分)

参加自由  
入場無料

## あなたもフォーラムに 参加しませんか!!



### ★ 発表・展示主催者

講演・ワークショップ・展示・演劇など、発表形式は自由。例年多くの団体が、教育・若者・国際・HIVと  
共に生きる・医療など、多様な切り口で発表しています。詳しくはホームページをご覧ください。

(募集開始4月頃)

### ★ 来場者・視聴者

気になる講座を聞いたり、展示を見たり、人と出会ったり、つながったり、フォーラムに来て一緒に  
楽しんで考えましょう！様々な事情で会場に来られない方も、一部プログラムをオンライン配信し  
ますので気楽に参加してください。

### ★ ボランティア

小学生から社会人の方まで、幅広い年齢層の方々がフォーラムの開催を支えています。ボランティ  
ア活動を通じて、新しい出会いや日常に役立つ知識が得られます。

詳細はホームページをご覧ください！ <https://abf-yokohama.org/>

Facebook <https://www.facebook.com/abfyokohama/>

